

福童石橋遺跡

福童石橋遺跡

—福岡県小郡市福童所在遺跡の調査報告—

小郡市文化財調査報告書 第362集

小郡市文化財調査報告書第362集

2024

小郡市教育委員会

小郡市教育委員会

序

小郡市は近年地理的環境を背景に、ベッドタウンや工業団地をはじめとするさまざまな開発により発展を続けています。それに伴い流通倉庫の建設が相次いで行われています。

今回報告する福童石橋遺跡は今回が初めての調査であり、大きな成果を上げることができました。近世の溝を多数検出し、人々がこの地を田畑として利用してきた痕跡を確認しました。またこの地域は水害に悩まされる地域であり、人々の水の管理の結晶を生々しく感じることができました。本書が当時の人々の生活と文化を現在の私たちに伝えることができれば幸いです。

最後に、現地発掘調査にご理解とご協力をいただいた周辺住民の皆様、そして現地作業にあたった地元作業員の皆様など、発掘調査を進める際にお世話になった多くの方々に感謝を申し上げ、序文といたします。

令和6年3月31日

小郡市教育委員会
教育長 秋永晃生

例言

- 1、本書は、福岡県小郡市福童字石橋に所在する福童石橋遺跡1区の発掘調査報告書である。
- 2、発掘調査は株式会社アイチ・代表取締役葛城亮氏から委託を受け、小郡市教育委員会が実施した。
- 3、調査期間は、令和5年1月26日から令和5年3月31日まで実施した。調査面積は5,320㎡である。
- 4、遺構の実測は調査担当者と柏原孝俊、平田太輝(別府大学学生)、仲田美乃里(福岡大学学生)、服部美紀(福岡大学学生)、遺物実測は調査担当者が行い、遺物トレースは林知恵、遺構デジタルトレースは宮崎美穂子が行った。遺物の洗浄・接合は佐々木智子、永富加奈子、牛原真弓、佐藤優子、久佐木美樹が行った。
- 5、遺構配置図の実測は(株)埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
- 6、遺構の写真撮影は調査担当者、遺跡の空撮は(有)空中写真企画、遺物の写真は(有)システム・レコが行った。
- 7、本書で使用する遺構の略号として以下を用いて表示している
SK： 土坑 SD： 溝 SF： 道路状遺構
- 8、遺物・実測図・写真は小郡市埋蔵文化財調査センターにて保管・管理している。広く活用されることを期待する。
- 9、本書の執筆・編集は高橋が行った。

目次

第1章 調査の経過と組織	1
1、調査に至る経緯	
2、調査の経過	
3、調査組織	
第2章 位置と環境	2・3
1、地理的環境	
2、歴史的環境	
第3章 福童石橋遺跡の遺構と遺物	4～26
1、遺跡の概要	
2、遺構と遺物	
(1) 土坑	
(2) 道路状遺構	
(3) 溝	
第4章 調査の成果	27・28

插图目次

第1图	福童石桥遗迹 调查地位置图(S=1/4,000)	2
第2图	周边遗迹分布图(S=1/50,000)	3
第3图	1~3号土坑 实测图(S=1/40)	5
第4图	4~7号土坑 实测图(S=1/40)	6
第5图	8号土坑 实测图(S=1/40)	8
第6图	9·10号土坑 实测图(S=1/40)	9
第7图	11号土坑 实测图(S=1/40)	10
第8图	12号土坑 实测图(S=1/40)	11
第9图	1号道路状遗构 实测图(S=1/80)	13
第10图	1号道路状遗构 土层图(S=1/40)	14
第11图	1号道路状遗构 土层模式图(S=1/40)	15
第12图	2·3·4号沟 土层图①(S=1/40)	17
第13图	2·3·4号沟 土层图②(S=1/40)	18
第14图	3·5·6·7·8·14号沟 土层图(S=1/40)	19
第15图	8·18号沟、7·19·20号沟 土层图(S=1/40)	22
第16图	15·18·21·24号沟 土层图(S=1/40)	23
第17图	1·8号土坑、1·2·3·4·7·8·10·15·16·18号沟 出土遗物实测图(S=1/4)	25
第18图	3·7·19·25号沟、1号道路状遗构 出土遗物实测图(S=1/4、※:S=1/2)	26
第19图	福童石桥遗迹 地籍图 合成图(S=1/1,000)	28

表目次

表1	福童石桥遗迹 出土遗物 观察表	29·30
----	-----------------	-------

附图

福童石桥遗迹 遗构配置图(S=1/200)

図版目次

図版 1

①調査区全景(上空から)

②調査区上空から秋光川を臨む(上空から)

図版 2

①8号溝全景(上空から)

②1号土坑 土層断面

③2号溝土層断面

④1号土坑 完掘

⑤2号土坑 完掘

図版 3

①1・2号土坑 完掘

②3号土坑 土層断面・完掘

③4号土坑 土層断面

④4号土坑 完掘

⑤5号土坑 完掘

⑥6号土坑 完掘

⑦7号土坑 土層断面

⑧7号土坑 完掘

図版 4

①4・5・6・7号土坑 完掘

②8号土坑 土層断面

③8号土坑 完掘

④9号土坑 土層断面

⑤9号土坑 完掘

⑥10号土坑 土層断面

⑦10号土坑 完掘

⑧11号土坑 土層断面

図版 5

①11号土坑 完掘

②12号土坑 土層断面・完掘

③1号道路状遺構 南壁土層断面

④1号道路状遺構 北壁土層断面

⑤1号道路状遺構 完掘

⑥1号溝 完掘

⑦2・3・4号溝土層(b-b')

⑧2・3・4号溝土層(c-c')

図版 6

①2・3・4号溝土層①

②2・3・4号溝土層②

③2・3・4号溝土層(d-d')

④2・3・4号溝 完掘

⑤8号溝 土層(g-g')

⑥8号溝 土層(l-l')

⑦8号溝 土層(SD8a-a')

⑧8・18号溝 土層(SD8c-c')

図版 7

①8・18号溝 土層(SD8・18b-b')

②8号溝 北東角 完掘

③8号溝 南 完掘

④10・12・13号溝 完掘

⑤14号溝 土層(m-m')

⑥15号溝 土層(n-n')

⑦15号溝 完掘

⑧作業風景

図版 8

①18号溝 土層(o-o')

②19・20号溝 土層(SD19・20a-a')

③19・20号溝 完掘

④21号溝 土層(p-p')

⑤24号溝 完掘(q-q')

⑥21・24号溝 完掘

⑦25号溝 完掘

⑧作業風景

図版 9

出土遺物①

図版 10

出土遺物②

図版 11

出土遺物③

図版 12

出土遺物④

図版 13

出土遺物⑤

図版 14

出土遺物⑥

図版 15

出土遺物⑦

第1章 調査の経過と組織

1、調査に至る経緯

小郡市福童は西側に佐賀県鳥栖市と隣接しており、鳥栖インターチェンジにも非常に近い場所に位置している。その地の利を生かし最近では流通倉庫の建設が多い地域である。

本遺跡の調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地福童石橋遺跡地内（小郡市福童 200 他 15 筆）が流通倉庫建設の対象地となり、令和3年12月8日付で株式会社アイチ・代表取締役葛城亮氏より埋蔵文化財の有無に関する照会（事前審査番号 21126）が提出されたことに始まる。これを受け、小郡市教育員会文化財課で対象地の一部で試掘調査を行った。結果、弥生時代の遺構・遺物が確認され遺跡の存在が認められたため、発掘調査による記録保存が必要な旨の回答を行った。その後、施工業者と小郡市教育員会文化財課で協議し、令和4年度事業として発掘調査を実施し、令和5年度に発掘調査報告書を刊行することで同意を得た。

2、調査の経過

発掘調査は令和5年1月26日から3月31日にかけて実施した。以下、調査の経過を調査日誌から抜粋する。

10/25	現場にて開発業者と打ち合わせを行う
1/26～	表土剥ぎを開始する
2/9～	作業員を投入して遺構掘削を開始する 表土剥ぎも同時進行で行う
3/7～	(株)埋蔵文化財サポートシステムにより全体図の測量を開始する
3/24	空撮を行う
3/27～3/30	埋め戻しを行う
3/31	現場の引き渡しを行う

3、調査組織

〔令和4年度 調査 令和5年度 整理作業〕

小郡市教育委員会 教育長 秋永 晃生
教育部長 藤吉 宏（令和4年度）
熊丸 直樹（令和5年度）

文化財課 課長 杉本 岳史
係長 山崎 頼人
技師 高橋 渉

発掘作業員

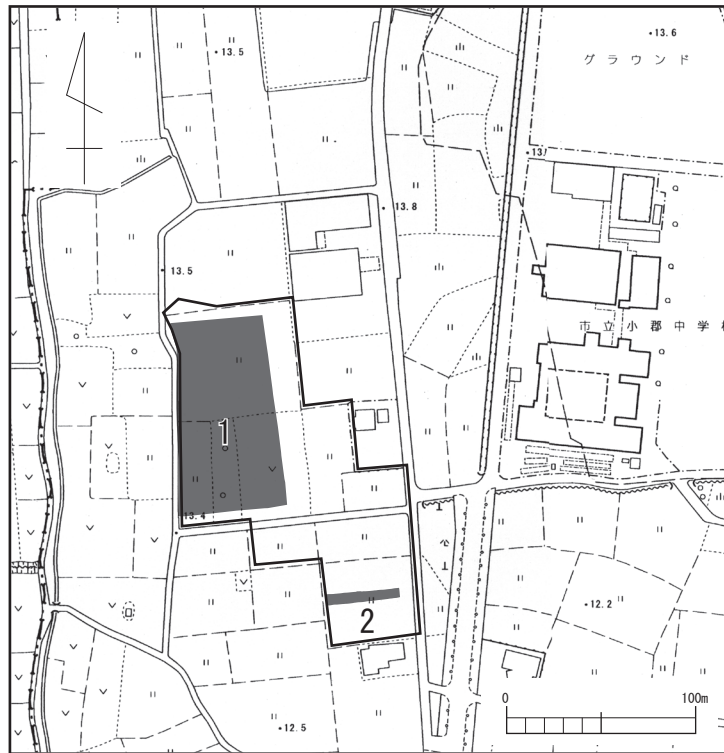
西初代 吉岡広志 黒田祐治 市瀬和子 山口玲子 吉田浩 岩本眞行 阿部孝一 串尾弥生子
瀬戸口善行 中武奈津子 中村康博 諸藤収吉 佐藤明勇 浅倉啓子 早坂幸子（小郡市在住）
平田太輝（別府大学学生） 仲田美乃里（福岡大学学生） 服部美紀（福岡大学学生）（順不同）

第2章 位置と環境

1、地理的環境

小郡市は福岡県の中央部に位置し、博多湾から南へ25km程の内陸部にあたる。市域は東西6km、南北12km、総面積45.5km²を有する南北に長い行政区をもつ。宝満山を水源とする宝満川により東西に二分され、その西岸は脊振山系から派生する丘陵部（通称、三国丘陵）を頂部として低位段丘が南へ向かって伸び、沖積地を経て筑紫平野へと連なる。

福童石橋遺跡は宝満川の支流秋光川の左岸低台地に位置し、遺構面の標高は13.2m前後を測る。

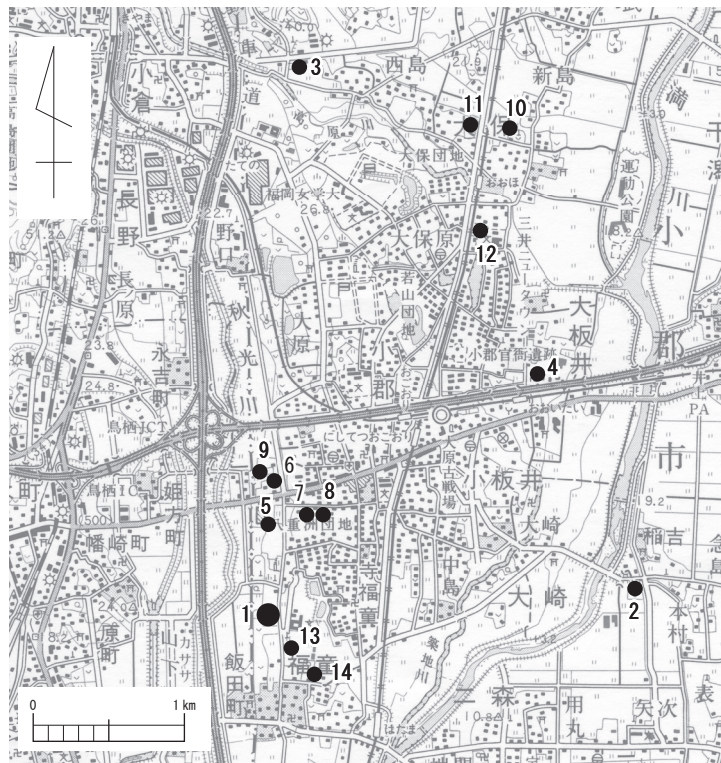


第1図 福童石橋遺跡 調査地位置図 (S=1/4,000)

2、歴史的環境 (第1・2図)

福童石橋遺跡は今回が初めての調査である。遺跡が所在する西福童区は古くから水害に見舞われた地域で、近年の例では昭和28・38年の大水害がある。さらに最近でもたびたび水害に見舞われる地域である。中世以降を中心に周辺の状況を見ていきたいと思う。

中世になると稲吉元矢次遺跡(2)や西島遺跡3(3)といった拠点集落が形成されるようになる。稲吉元矢次遺跡は12世紀～14世紀にかけて営まれた宝満川を介した港町で、中国から輸入された陶磁器が多量に見つかるなど12世紀～14世紀にお



- 1: 福童石橋 1
- 2: 稲吉元矢次
- 3: 西島 3
- 4: 大板井
- 5: 福童山の上
- 6: 小郡正尻
- 7: 小郡野口
- 8: 小郡堂の前
- 9: 小郡南原
- 10: 大保西小路
- 11: 三沢寺小路
- 12: 善風塚
- 13: 福童東内畑
- 14: 福童町

第2図 周辺遺跡分布図 (S=1/50,000)

ける集落の繁栄を垣間見ることができる。また、絵といろは歌が墨書された土師器や基石等の娯楽道具も出土している。また多くの鉄滓とともに溶かした鉄をすくう取瓶も発見され、集落内で鍛冶を行っていたと考えられる。西島遺跡3次調査の土坑からは12世紀前半代～12世紀中頃の多数の青磁や土師器

が出土しており、特に青磁は小郡市内で出土量が多い遺跡であることから、拠点集落であったと考えられる。大板井遺跡(4)でも散発的であるが、同時期の井戸や土壙墓が確認されている。

一方、福童山の上遺跡(5)や小郡正尻遺跡(6)、小郡野口遺跡(7)で中世の集落が確認されている。福童山の上遺跡は13世紀前半から13世紀後半の集落が確認され、土師器の小皿や東播系須恵器などとともに龍泉窯系青磁碗や青白磁合子が出土している。また大型の方形周溝を確認しておりとても興味深い。プラントオパール分析の結果、一帯に水田が広がっていたと考えられる。小郡野口遺跡(7)では14世紀中頃から15世紀の集落が確認され、土師器や龍泉窯系青磁、備前焼のすり鉢などが出土している。小郡堂の前遺跡(8)では13世紀半ばから14世紀中頃の井戸や大溝を検出している。遺物は土師器や黒色土器に交じり龍泉窯系青磁碗が出土している。また小郡南原遺跡(9)でも詳細な時期は不明であるが中世の溝と竪穴状遺構を確認している。

その後14世紀以降になると大保西小路遺跡(10)において14世紀～16世紀を中心とする集落跡が発見されている。土坑や鍛冶関連遺構などとともに地下式土坑が確認されている。この地下式土坑は墓地の可能性が指摘されている。この土坑からは多くの陶磁器類とともに「明」の銅銭や五輪塔空・風輪、青銅製懸仏などの注目すべき遺物が数多く出土している。また、三沢寺小路遺跡(11)では従来1349年の大保原合戦の戦死者を弔った善風寺跡地に比定される伝承が残る地域である。近年の発掘調査成果により区画溝や、この区画溝に沿った土壙墓群から大量の軒丸瓦・軒平瓦・土師器が出土し、時期的にも伝承通りこの地に善風寺が存在した可能性が高い。大原小学校の校庭には大保原合戦で亡くなった武将の塚と伝わる「善風塚」(12)もあり、この地で勃発した九州南北朝最大の戦い「大保原(大原)合戦」が大きな画期となっている。

近世になると薩摩街道沿いに宿場町が築かれる。福童東内畑遺跡(13)で、近世の所産である遺構・遺物が集中している。溝状遺構が多数検出され、井戸状遺構・廃棄土坑などの生活に密着した遺構が見つかる。注目される遺構として1号溝状遺構があげられる。溝から良品の陶磁器を一括して廃棄した様相を確認した。遺構の時期は17世紀台であり、当該時期は万次二年(1659)・延宝四年(1676)に洪水に襲われた記録が古文書に残っている。この一括廃棄はその際に廃棄された可能性が指摘されている。また隣接する福童町遺跡(14)でも17世紀台の溝を多く検出している。溝の性格については区画施設と考えられている。

第3章 福童石橋遺跡の遺構と遺物

1、調査の概要

本調査区は現在田畑が広がっている。層序は耕作土の下に黒色土が堆積し、さらに黒色土を掘り下げると褐色ローム（基盤層）が現れ、遺構はこの褐色ロームを掘り込んでいる。遺構の標高は13.2m前後である。時期は中世と近世であり、近世の遺構の埋土は褐色土で締まりがない。中世の遺構の埋土は黒色土でしまっている。検出した遺構は土坑12基、溝状遺構22条、道路状遺構1条である。以下遺構ごとに説明を行っていく。

2、遺構と遺物

(1) 土坑

1号土坑（第3図 図版2・3）

調査区北西側で検出した土坑で隅丸方形を呈する。長さは長軸1.15m、短軸0.8m、深さ0.2mを測る。床面にむかって緩やかに下り、床面は水平である。遺構からは完形の土師器坏が出土している。1号土坑は土壙墓の可能性があり、土師器の坏は副葬品である可能性が高い。

出土遺物（第17図 図版9）

第17図1は土師器の坏である。口径12.4cm、器高2.7cmを測る。底部に糸切りを施す。

2号土坑（第3図 図版2・3）

調査区北西側で検出した土坑で1号土坑の東側に位置し、1号土坑、2号土坑が並び合ったような状況で検出した。遺構平面は隅丸方形を呈し、長さは長軸1.1m、短軸0.7m、深さ0.2mを測り、1号土坑とほぼ同一の規模である。遺物は出土していない。遺構の形態から2号墓も土壙墓の可能性はある。

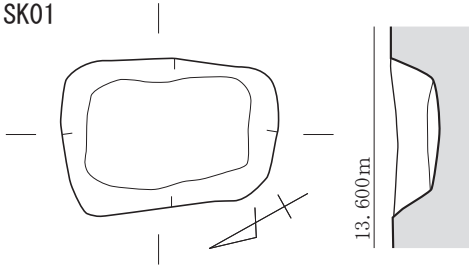
3号土坑（第3図 図版3）

調査区北西側で検出した土坑で、遺構の半分以上が調査区外にのびる。平面は隅丸長方形を呈していると思われる。現状で長軸2.5m、短軸0.4m、深さは最大0.4mを測る。複数のテラスを有し北側から南側に向かって階段状に下っていく。壁は急激に落ちている。遺物は小片のため図化していない。

4号土坑（第4図 図版3・4）

調査区西側で検出した土坑で長方形を呈する。南東側の一部に攪乱が入る。現状で長軸1.75m、短軸0.75m、深さ0.35mを測る。南北にテラスを有し、中央にむかって緩やかに下っている。さらに中央の平坦面の周囲に細い溝を掘り込んであり、平坦面の一部がピット状に窪んでいる。土層は黒褐色土と黄褐色土が水平に堆積し、北側と南側に黒色土の掘り込みが確認できる。遺構の形態や土層観察から4号土坑は木棺墓の可能性が高く、この黒色土の掘り込みは木棺の可能性が考えられる。遺物は残念ながら出土していないため、時期の特定は困難である。

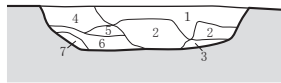
SK01



13.600m

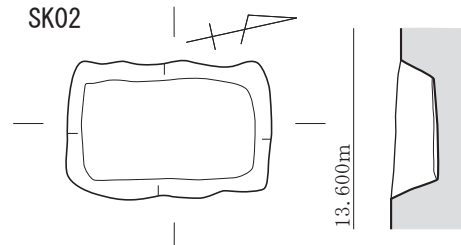


13.600m



- 1 7.5YR3/1 黒褐色土+10YR8/6 黄褐色粘土ブロックが混じる
- 2 7.5YR2/1 黒色土
- 3 10YR8/6 黄褐色粘土ブロック+7.5YR3/1 黒褐色ブロック土
- 4 7.5YR3/1 黒褐色土
- 5 10YR8/6 黄褐色粘土+7.5YR3/1 黒褐色土
- 6 7.5YR3/1 褐灰色土
- 7 7.5YR4/3 褐色土

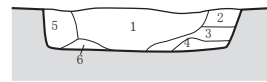
SK02



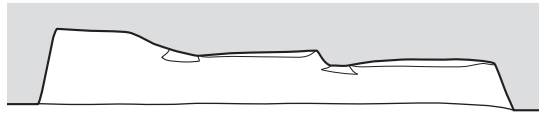
13.600m



13.600m



- 1 10YR2/2 黒褐色土 (10YR5/6 黄褐色粘土ブロックを含む)
- 2 10YR2/1 黒色土
- 3 7.5YR2/1 黒色土
- 4 7.5YR3/4 暗褐色土
- 5 7.5YR3/1 黒褐色土
- 6 10YR3/1 黒褐色土



13.600m

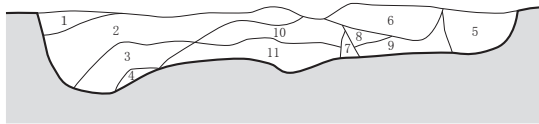
SK03



13.600m



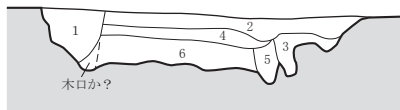
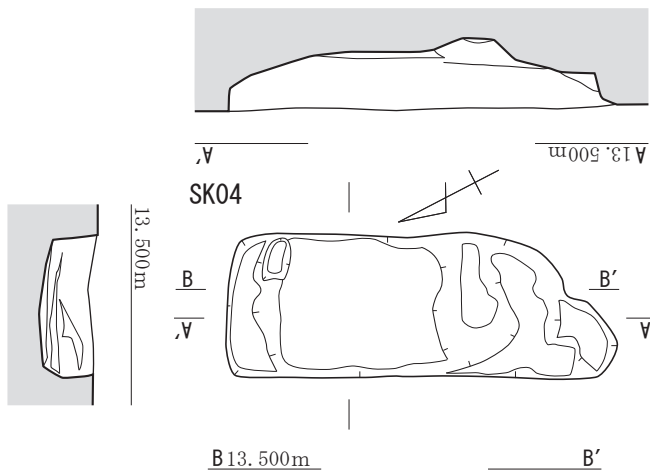
耕作土



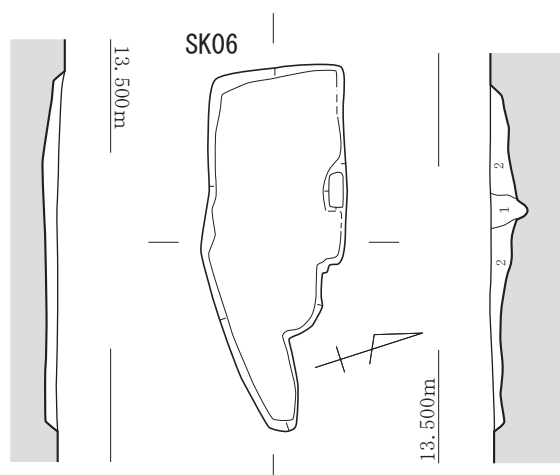
- 1 2.5Y4/1 黄灰色土
- 2 5Y3/1 オリーブ黒色土 (2.5Y7/1 黄色土小ブロックを含む)
- 3 5Y2/1 黒色土
- 4 2.5Y5/2 暗黄灰色土
- 5 7.5Y2/1 黒色土
- 6 2.5Y3/1 黒褐色土
- 7 2.5Y8/6 黄色土 (10YR3/1 黒褐色土ブロックを含む)
- 8 10YR2/1 黒色土 (10YR7/6 明黄褐色土ブロックを含む)
- 9 7.5YR1.7/1 黒色土 (10YR8/6 黄褐色土ブロックを含む)
- 10 5Y3/2 オリーブ黒色土 (2.5Y8/6 黄色土ブロックを含む)
- 11 2.5Y2/1 黒色土



第3図 1～3号土坑 実測図 (S=1/40)



- 1 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 (別ビット)
- 2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土
- 3 2.5Y3/1 黒褐色土
- 4 10YR3/3 黒黄褐色土
- 5 2.5Y2/1 黒色土 (木棺墓の木口か?)
- 6 10YR2/3 黒褐色土



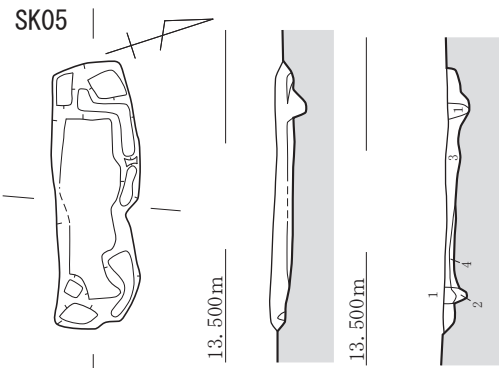
13.500m



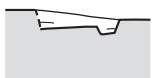
13.500m



- 1 10YR3/2 黒褐色土
- 2 10YR3/1 黒褐色土 (にぶい黄褐色土粒を含む)
- 3 10YR3/1 黒褐色土
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色土 (黄褐色土粒を含む)



13.500m



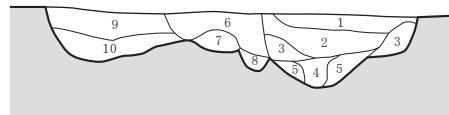
13.500m

- 1 10YR2/1 黒色土
- 2 10YR5/4 にぶい黄褐色土
- 3 10YR3/2 黒褐色土
- 4 10YR5/4 にぶい黄褐色土 (明黄褐色土を含む)



SK07

13.500m



- 1 10YR3/2 黒褐色土 (2.5Y8/8 黄色土ブロックを含む)
- 2 2.5YR2/1 赤黒色土 (2.5Y8/6 黄色土ブロックを含む)
- 3 5YR3/2 暗赤褐色土
- 4 7.5YR3/1 黒褐色土
- 5 10YR8/4 浅黄橙色土 (2.5Y3/1 黒褐色土ブロックを含む)
- 6 2.5Y2/1 黒色土
- 7 2.5Y6/8 明黄褐色土
- 8 5Y7/6 黄色土
- 9 2.5Y3/1 黒褐色土
- 10 5Y6/6 オリーブ色土 (5Y2/2 オリーブ黒色土ブロックを含む)



第4図 4～7号土坑 実測図 (S=1/40)

5号土坑（第4図 図版3・4）

調査区西側で検出した土坑で、長方形を呈する。長軸 1.4m、短軸 0.5m、深さ 10cm を測る。遺構の残存状況がとても悪い。壁は緩やかに下り、底面は水平である。底面の周囲に溝を掘り込んでいる。土層は黒褐色土が堆積し、四方の細い溝には黒色土が掘り込まれている。5号土坑も4号土坑同様、木棺墓の可能性が高くこの黒色土の掘り込みは木棺の痕跡であろう。遺物は残念ながら出土していない。

6号土坑（第4図 図版3・4）

調査区西側で検出した土坑で、5号土坑の東側に位置する。平面は不整形を呈する。長軸 1.9m、短軸 0.75m、深さ 10cm を測る。床面に向かって緩やかに下り、床面は水平である。遺物は出土していない。

7号土坑（第4図 図版3・4）

調査区西側で検出した土坑で、5号土坑の西側に位置する。土坑の西側を6号溝に切られる。平面は隅丸方形を呈する。長軸 2.0m、短軸 0.5m、深さ 25cm を測る。複数の小さいテラスを有し、一部が窪む。遺物は出土していない。

8号土坑（第5図 図版4）

調査区中央部で検出した土坑で21号溝に切られる。平面は不整形を呈する。北側の一部を掘りすぎってしまった。長軸 5.4m、短軸 3.3m、深さ 30cm を測る。土層を観察すると遺構を掘削後、南側をもう一度再掘削している。複数のテラスを有し、北側から南側に向かって下っていく。

出土遺物（第17図 図版9）

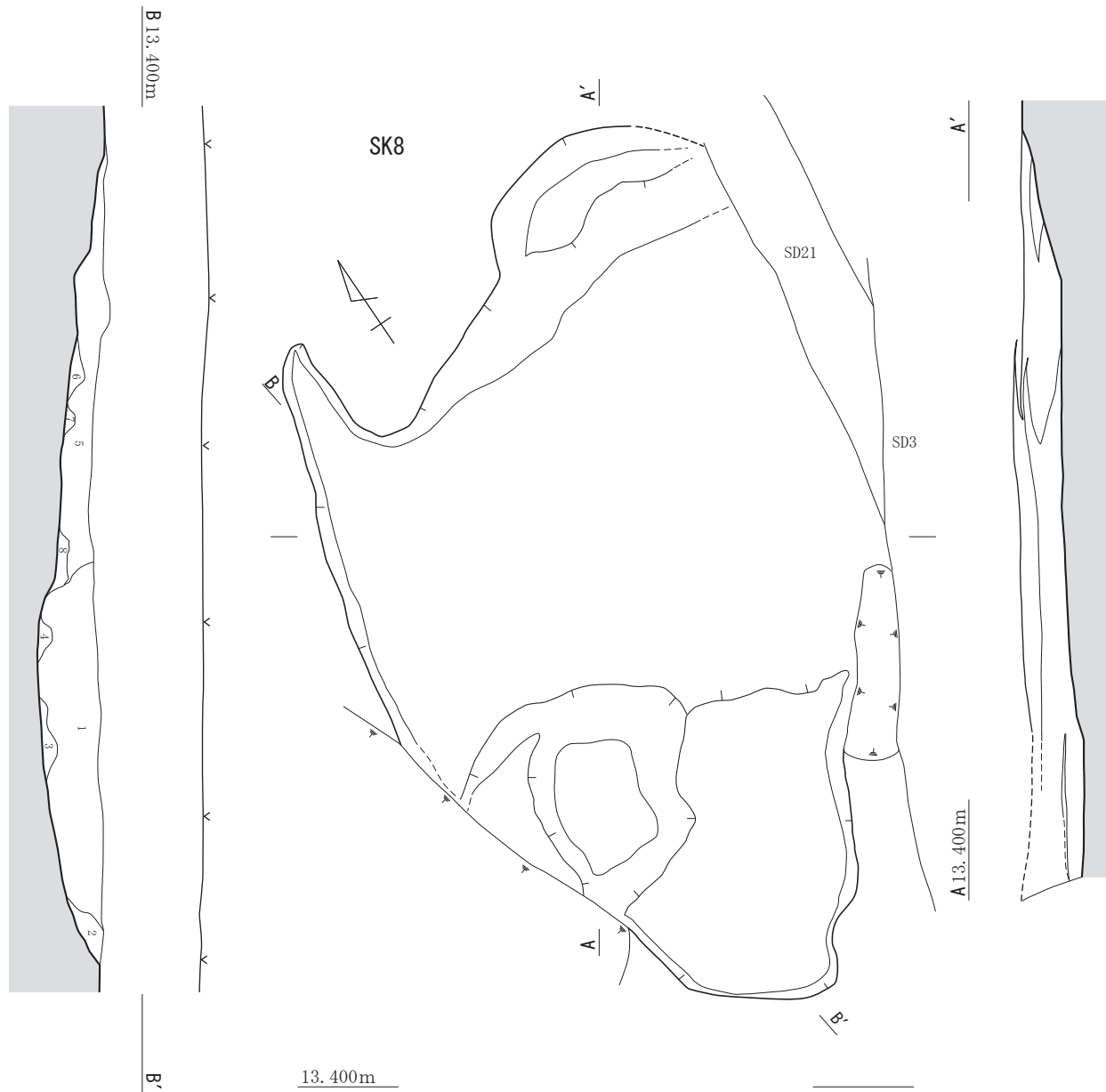
第17図2は土師器の皿である。底径 7.8cm を測る。底部に糸切りを施す。

9号土坑（第6図 図版4）

調査区中央で検出した土坑で、8号溝を切る。平面は円形を呈し、規模は長軸 1.4m、短軸 1.1m、深さ 0.9m を測る。テラスを有し、中央部が急激に下がる。また湧水が激しい。土層は黒色土と黒褐色土が水平に堆積しており人為的な埋め戻しであると思われる。遺物は出土していない。時期は不明であるが素掘りの井戸であると思われる。

10号土坑（第6図 図版4）

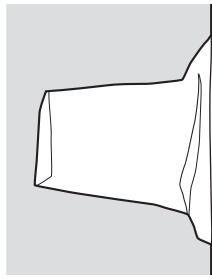
調査区東側で検出した土坑で、11号溝の北側に位置する。井戸と思われる。湧水が激しい。遺構は方形を呈しており、検出段階では黒褐色土と地山由来の黄褐色粘土ブロックが混じっていた。遺構を半裁してみると中央部に井戸枠であろうと考えられる円柱状の層があり、その周りを黄褐色土と褐灰色土をもちいて固定している様相が見て取れた。井戸枠の規模は上層で直径 0.6m、下層で 0.25m である。掘方は長軸 1.5m、短軸 1.2 m、深さ 0.7m を測り、平面は方形である。井戸を作る際にまず方形に掘り、その中央に井戸枠を設置し、黄褐色土と褐灰色土を交互にもちいて井戸枠を固定したと考えられる。井戸枠内及び掘方からの遺物は出土していない。



- 1 10VR2/1 黒色土 (黄褐色土粒を少量含む)
- 2 10VR4/4 褐色土 (黒褐色土粒を少量含む)
- 3 10VR5/4 にぶい黄褐色土 (褐色土ブロックが混じる)
- 4 10VR5/4 にぶい黄褐色土 (褐色土ブロックを少量含む)
- 5 10VR3/1 黒褐色土 (にぶい黄褐色土粒を多く含む)
- 6 10VR6/4 にぶい黄褐色土 (黒褐色土ブロックが混じる)
- 7 10VR6/4 にぶい黄褐色土 (黒褐色土ブロックを多く含む)
- 8 10VR3/2 黒褐色土 (にぶい黄褐色土粒を多く含む)

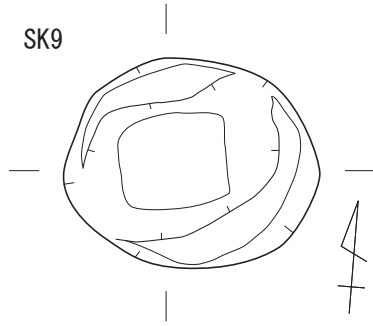


第5図 8号土坑 実測図 (S=1/40)

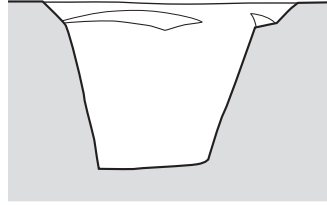


13.100m

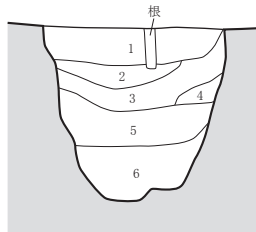
SK9



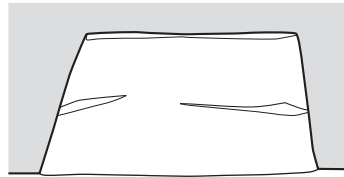
13.100m



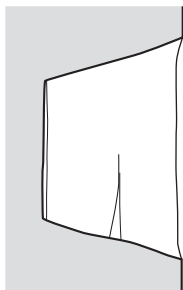
13.100m



- 1 2.5Y3/1 黒褐色土 (固くしまる)
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色土 (10YR8/6 黄橙色土ブロックを含む、粘土質)
- 3 10YR3/3 暗褐色土 (10YR7/6 明黄褐色土ブロックを含む、固くしまる)
- 4 7.5YR4/2 灰褐色土 (7.5YR6/6 橙色土ブロックを含む、しまる、粘土質)
- 5 5YR2/2 黒褐色土 (7.5YR7/4 にぶい 橙色土と 7.5YR6/1 褐灰色土のブロックを含む、粘土質)
- 6 10YR1.7/1 黒色土 (10YR8/6 黄橙色と 10YR7/1 灰白色土のブロックを含む、湧き水のため水を含み粘土質)

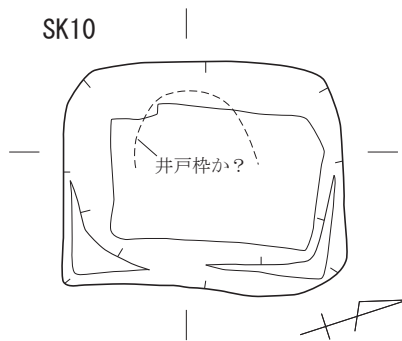


13.100m

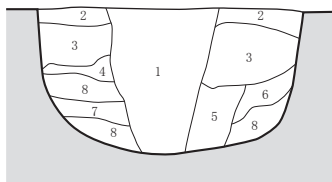


13.100m

SK10

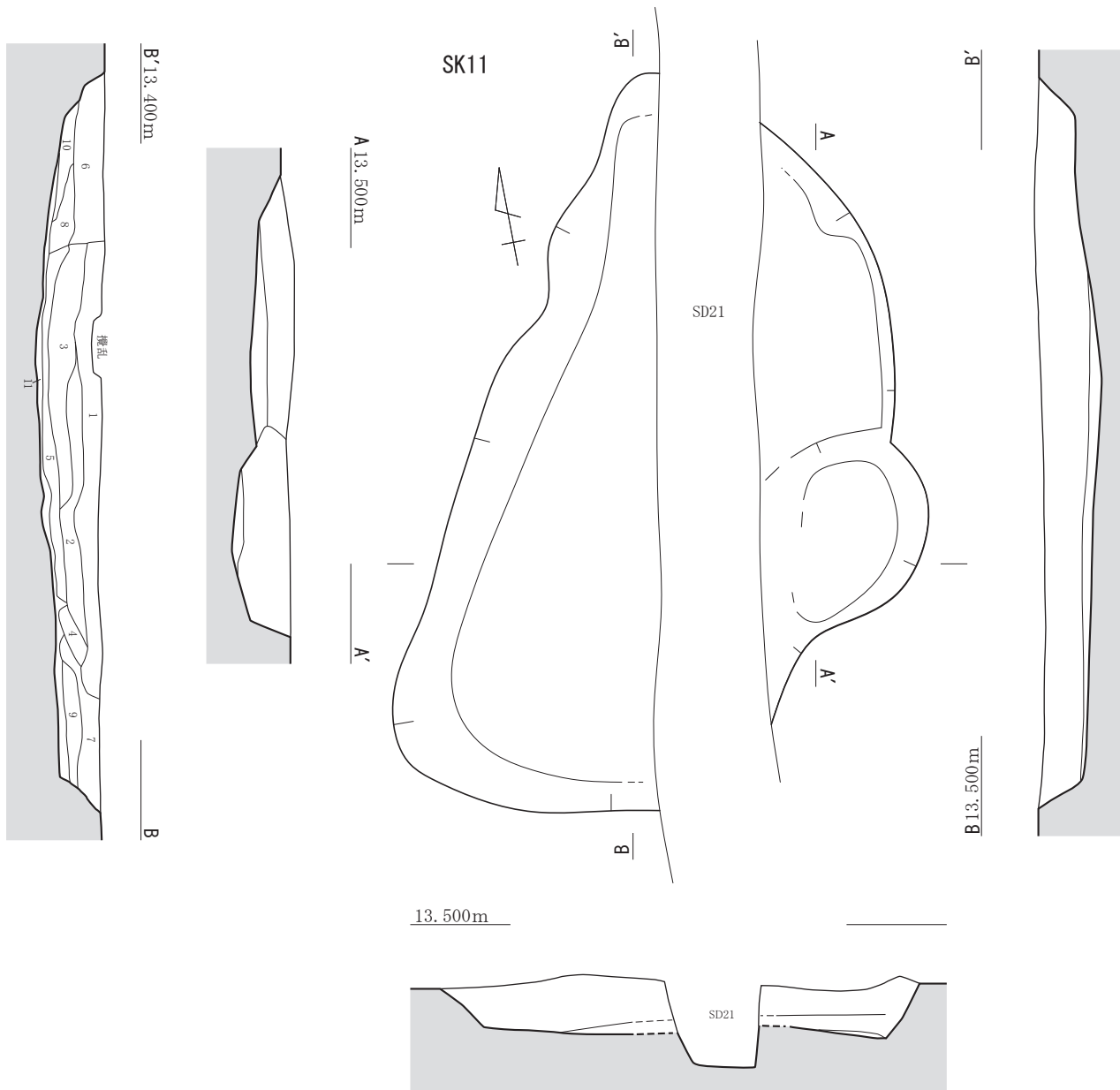


13.100m



- 1 10YR2/1 黒色土 (固くしまる、10YR8/8 黄橙色土ブロックを含む)
- 2 10YR3/2 黒褐色土 (しまっており、バサつく、10YR7/6 明黄褐色土ブロックを含む)
- 3 2.5Y5/2 暗灰黄色土 (粘質土、10YR7/6 黄橙色土ブロックを含む)
- 4 5Y2/2 オリーブ黒色土 (第3層より粘質土、2.5Y6/1 明黄褐色土ブロックを含む)
- 5 10YR3/3 暗褐色土 (少しバサつくがしまる、2.5Y7/6 明黄褐色土ブロックを含む)
- 6 10YR4/2 灰黄褐色土 (固い粘質土、2.5Y6/6 明黄褐色土ブロックを含む)
- 7 2.5Y4/1 黄灰色土 (粘質土、2.5Y8/8 黄色土ブロックを含む)
- 8 10YR4/1 褐灰色土 (粘質土、2.5Y8/6 黄色土ブロックを含む)

第6図 9・10号土坑 実測図 (S=1/40)



- 1 10YR3/2 黒褐色土 (明黄褐色の粘土ブロックを少量含む)
- 2 10YR3/1 黒褐色土 (明黄褐色の粘土ブロックとにぶい黄褐色土粒を少量含む)
- 3 10YR2/1 黒色土 (明黄褐色土粒を中量含む)
- 4 10YR2/2 黒褐色土 (明黄褐色の粘土ブロックを少量含む)
- 5 10YR2/1 黒色土 (にぶい黄褐色粘土ブロックを含む)
- 6 10YR3/1 黒褐色土 (10YR8/8 黄土粘土ブロックを含む)
- 7 7.5YR3/1 黒褐色土 (にぶい黄褐色土粒を少量含む)
- 8 10YR4/3 にぶい黄褐色土
- 9 10YR3/2 黒褐色土 (にぶい黄褐色粘土ブロック・明黄褐色土粒を少量含む)
- 10 10YR4/3 にぶい黄褐色土 (1cm大の10YR8/8 黄土色粘土ブロックを含む)
- 11 10YR7/6 明黄褐色粘質土



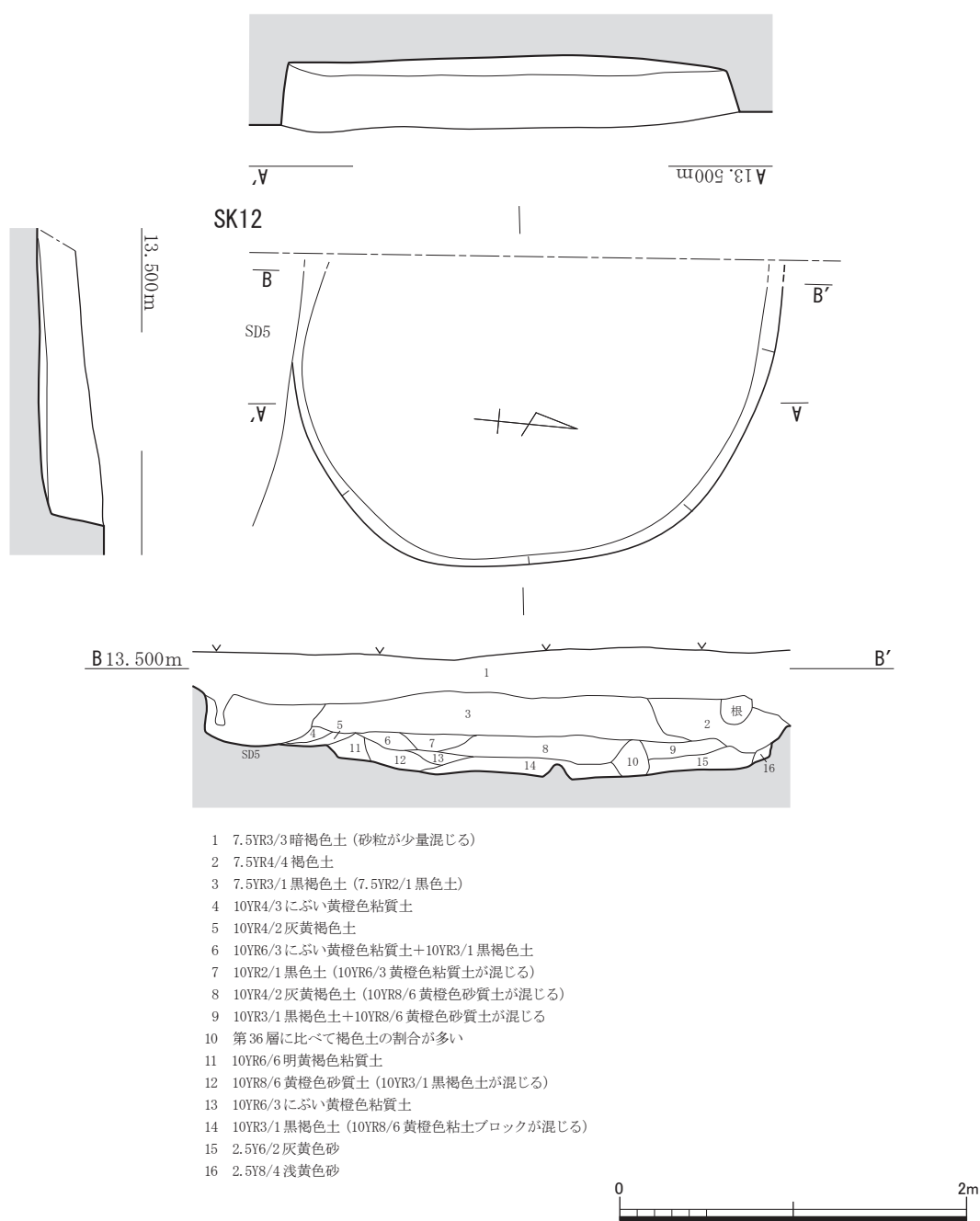
第7図 11号土坑 実測図 (S=1/40)

11号土坑 (第7図 図版4・5)

調査区中央部で検出した土坑で、21号溝に切られる。平面は隅丸長方形を呈し、その規模は長軸3.42m、短軸2.85m、深さ0.3mを測る。床面に向かって緩やかに下り北西側が一部窪んでいる。遺物は小片のため図化していない。

12号土坑 (第8図 図版5)

調査区北西側で検出した土坑で、土坑の西側半分が調査区外に延びる。遺構平面は円形を呈する。遺構の南側を5号溝が切る。規模は長軸2.6m、短軸1.7m、深さ0.45mを測る。床面に向かって比較的緩やかに下っている。底面は水平である。土層は黒褐色土と黄褐色粘質土が交互に堆積し、床面は砂である。遺物は出土していない。



第8図 12号土坑 実測図 (S=1/40)

(2) 道路状遺構

1号道路状遺構（16・17号溝）（第9・10図 図版5）

調査区の南東隅で検出した道路状遺構で、長さ9.8m、幅2.8mを測る。北東-南西に延びている。最低2回の路面補修の状況を確認することができた。東側の溝を17号溝、西側の溝を16号溝としている。遺物は近代の陶磁器が出土している。以下ではこの時期変遷を整理して報告する。

○第1段階（第11図）

道路状遺構の構築段階である。東西両端に側溝を取り付けて路面を確保している。まず湿気抜きのためであろうか、路面部分に波板状土坑を掘削する。その後その上に黒褐色土をもちいて路面を形成している。この路面はとても固く締まっており、路面の厚さは15cmほどである。東西に側溝を掘削している。側溝は17号溝が深く幅1.1m、深さ0.6mを測る。一方16号溝は幅0.5m、深さ0.4mを測る。

○第2段階（第11図）

第1段階の側溝を黒色土と粘土ブロックをわずかに含む粘質土で人為的に埋め立てている。埋め立ては第1段階の路面まで埋め立てている。埋め立てを行った後、その上に道路路面を再構築する。黒褐色土をもちいて路面を形成し、17号溝のみ再掘削している。側溝の規模は、幅0.7m、深さ0.15mと第1段階に比較して規模が縮小している。路面の厚さは10cmほどである。

出土遺物

16号溝出土遺物（第17図）

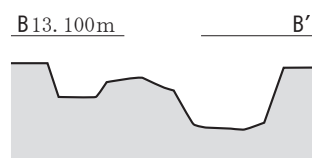
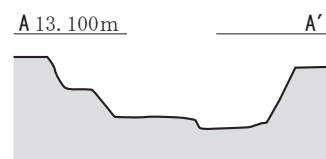
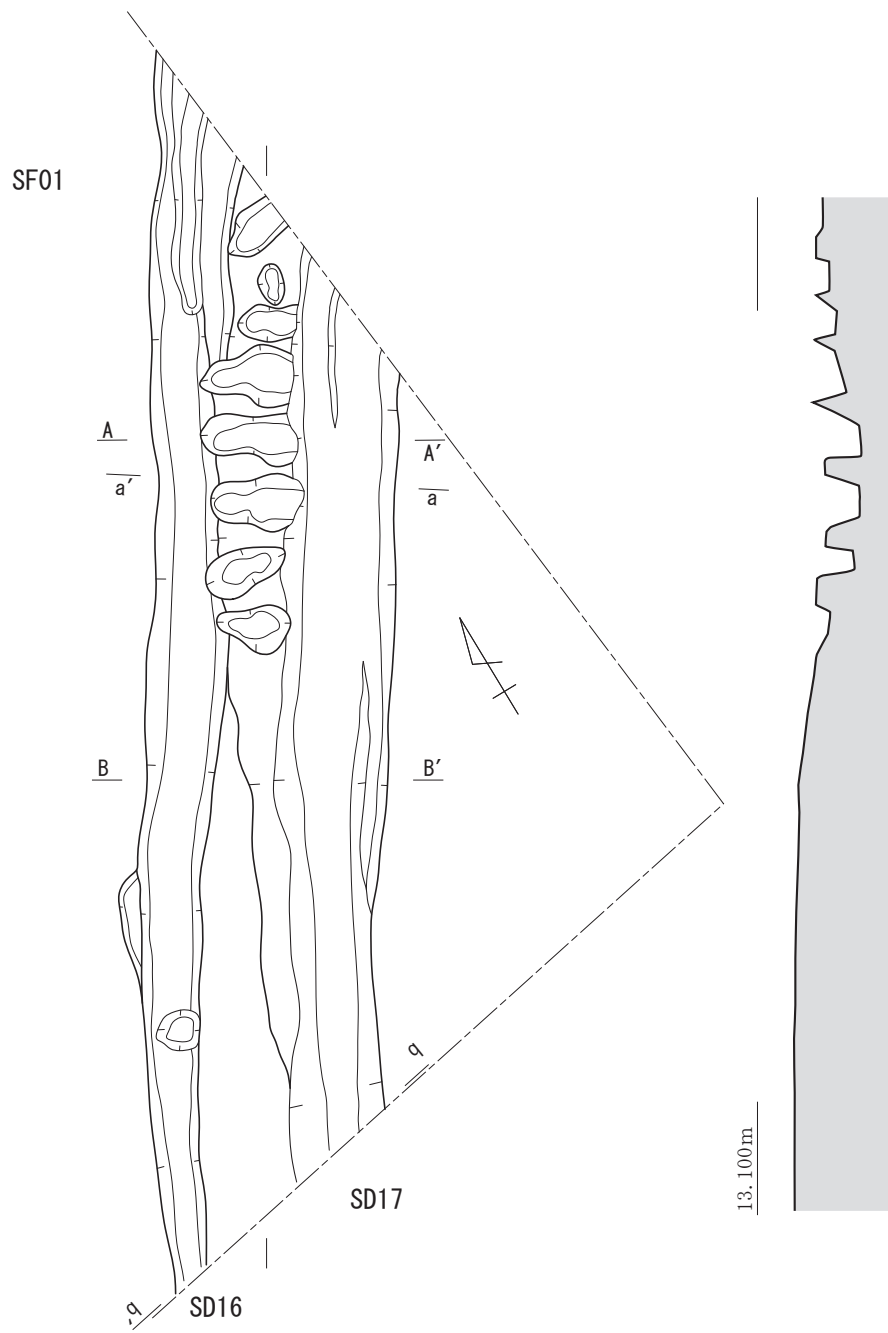
第17図40は龍泉窯系青磁碗の底部である。内外面に緑灰色の釉を施す。高台の内側に釉は施さない。41は瓦質のすり鉢である。外面はハケメを施したのち、ナデ消している。ナデは粗雑で、ハケメが一部残存している。内面はハケメを施した後、4条一組のすり目を刻む。

17号溝（第18図 図版12・13）

第18図1・2はすり鉢である。1は外面に赤褐色の鉄釉を施す。内面のすり目の溝がなくなるほど使い込まれている。2は外面に黒褐色の釉を施している。内面の底部付近には指頭の痕跡が強く残る。2は1と比較してすり目の溝が良く残存しており1と比べると対照的である。使用開始後すぐに廃棄されたと考えられる。3は磁器の碗である。内面は蛇の目剥ぎを施す。18世紀中頃から19世紀ごろの所産である。

路面及び波板状土坑出土遺物（第18図 図版15）

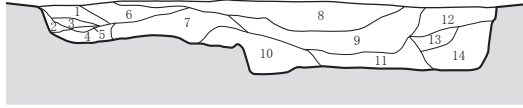
第18図9・10は青磁の碗である。9は龍泉窯系青磁碗の胴部で、内外面に緑灰色の釉を施す。内面に花草文を施す。10の外面に蓮弁文が施されている。17はサヌカイト製の三稜尖頭器である。波板状土坑からの出土である。長軸3.7cm、短軸1.2cm、厚さ1.1cm、重量3gを測る。先端部は使用による欠損がある。混ざり込みである。



第9図 1号道路状遺構実測図 (S=1/80)

a'13. 100m

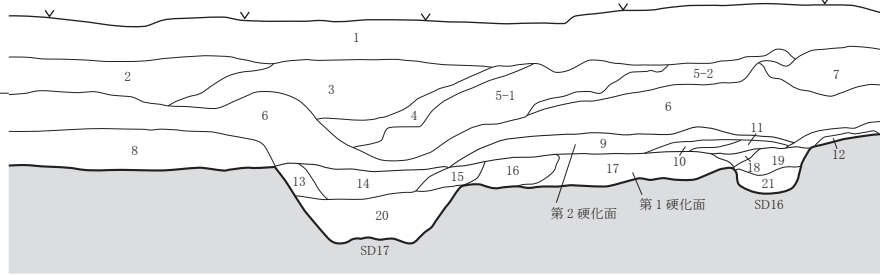
a



- 1 10YR3/2 黒褐色土
- 2 10YR3/1 黒褐色土
- 3 10YR3/2 黒褐色土
- 4 7.5YR3/1 黒褐色土
- 5 10YR3/1 黒褐色土
- 6 10YR6/3 にぶい黄褐色土
- 7 10YR3/3 暗褐色土
- 8 7.5YR4/2 灰褐色土 + 7.5YR4/1 褐灰色土
- 9 10YR4/2 灰褐色土
- 10 10YR4/1 褐灰色土 (路面1層目か?、10YR5/8 黄褐色粘土ブロックを含む)
- 11 10YR3/3 暗褐色土
- 12 10YR2/1 黒色土
- 13 10YR2/2 黒色土 (10YR6/4 にぶい黄褐色粘土ブロックを含む)
- 14 10YR2/2 黒色土

b13. 100m

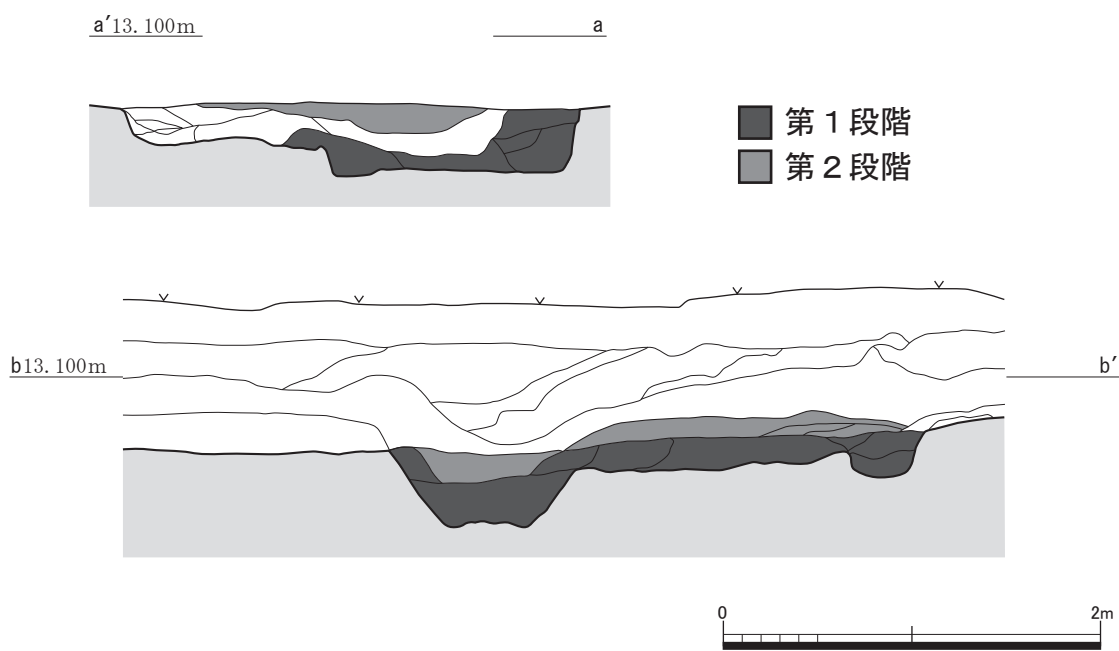
b'



- 1 10YR2/1 黒色土
- 2 7.5Y3/1 黒褐色土 (6 cm 大の粘土ブロックを含む)
- 3 10YR8/6 黄褐色土 (10YR7/8 黄褐色粘質土の粘土ブロックを少量含む)
- 4 10YR3/1 黒褐色土
- 5-1 2.5YR6/4 にぶい黄色粘土ブロック
- 5-2 10YR2/1 黒色土
- 6 10YR3/2 黒褐色土 (若干土が硬化)
- 7 10YR5/4 にぶい黄褐色土 (黒色土を若干含む)
- 8 2.5Y3/1 黒褐色土
- 9 10YR3/2 黒褐色土 (第6層より土が硬化、路面の2層めか?)
- 10 10YR3/2 黒褐色土 (路面の硬化面)
- 11 10YR3/2 黒褐色土 (路面側約半分の土が硬化)
- 12 10YR2/1 黒褐色土
- 13 7.5YR3/1 黒褐色土 (わずかに粘土ブロックを含む)
- 14 7.5YR3/1 黒褐色土
- 15 10YR2/1 黒色土
- 16 10YR2/2 黒褐色土
- 17 2.5Y2/1 黒色土
- 18 10YR3/2 黒褐色土
- 19 7.5YR2/1 黒色土 (粘土ブロックをわずかに含む)
- 20 10YR1.7/1 黒色土 (粘土ブロックをわずかに含む、粘質土)
- 21 10YR1/2 黒色土



第 10 図 1 号道路状遺構 土層図 (S=1/40)



第 11 図 1号道路状遺構 土層模式図 (S=1/40)

(3) 溝

1号溝 (図版 5)

調査区北西側で検出した溝で、溝の東側を 25号溝に、西側を 2・3・4号溝に切られる。その長さは 15.5m を測る。断面は逆台形状である。西側は 3号溝に切られるため様相は不明であるが、西側は 25号溝の途中で止まっている。遺物は古代の土師器が出土している

出土遺物 (第 17 図)

第 17 図 3 は土師器の坏である。復元底径 9.6cm を測る。底面はへら切りを施す。4 は土師器の把手である。残存長 6.0cm を測り、橙色を呈する。

2号溝 (第 12・13 図 図版 5・6)

調査区の北側で検出した溝で、3号溝に切られ、1号溝を切る。溝の断面は U 字形で、64m 検出した。土層観察の結果、複数回にわたって掘り直しを行っているようである。遺物は土師器が出土している。

出土遺物 (第 17 図 図版 9)

第 17 図 5 は土師器の坏である。復元口径 10cm、器高 2.8cm を測る。内外面ともに回転ナデを施す。6 は土師器の把手である。残存長 6.7cm を測る。7 は磁器の皿である。底径 4.0cm を測る。内外面ともにオリーブ灰色の釉薬を施す。内面底面に 5 つの砂目がみられる。8 は龍泉窯系青磁碗の胴部片である。残存長 6.3cm を測り、内外面に緑灰色の釉を施す。内面に草花文を描く。

3号溝 (第12・13・14図 図版5・6)

調査区中央部で検出した溝で、2・4号溝を切る。溝は南北方向と東方向に延びており、T字形である。検出した長さは東西64m、南北31mにも及ぶ。南側で接する7号溝との切り合い関係を確認するため土層を設定し観察を行ったが両溝に切り合い関係は見られず同時期の溝であることが判明した。また、土層観察の結果3号溝も複数回にわたって掘り直しをおこなっている。溝の断面はU字形である。溝の埋土は褐色土である。遺物は陶磁器が出土しており19世紀中頃の時期であろう。

出土遺物 (第17・18図 図版9・10・11・15)

第17図9は陶器の皿である。底径3.8cmを測る。内面と外面上部に灰色の釉を施す。底面は糸切りを施している。10は磁器の碗である。口径10.0cm、高台径3.8cm、器高5.5cmを測る。12は磁器の底部片である。内面に草花文を描く。外面高台内に砂粒が付着する。13は磁器の皿で、口径9.4cmを測る。内面に格子文を施し、内面底部は蛇の目剥ぎを施す。15は磁器の皿である。見込みは蛇の目剥ぎで、高台は露胎である。外面に白色釉、内面に銅緑釉を施す。18世紀後半ごろの所産であろうか。16は白磁の紅皿である。型押し成型である。内面にのみ白色の釉を施す。他にも実測はしていないが外面に蛸唐草を施す紅皿も出土している。17は陶器の皿である。内面に白色釉、内面は緑色釉を施し、内面には波状文を施す。18は瓦質の火鉢口縁部片である。口縁部下に櫛描列点文を施す。外面には1条の突帯が巡る。19は龍泉窯系青磁碗の口縁部である。内外面に淡緑灰色の釉を施している。外面には片掘蓮弁文を施し、弁の中心線に鎬をもつ。第17図15は五徳と思われる土製品である。残存長12.0cmを測る。ヘラによる丁寧なナデにより調整している。上部は扇形に開く構造をしている。煤などの付着は見られない。第18図16は砂岩製の砥石である。1面を砥面として利用している。

4号溝 (第12・13図 図版5・6)

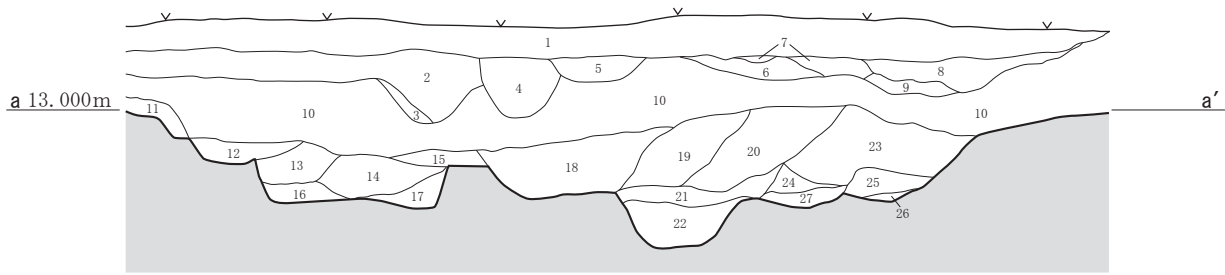
調査区北側で検出した溝で、3号溝に切られ、1号溝を切る。溝の断面はU字形を呈し、64m検出した。土層を観察すると複数回にわたって掘り直しを行っている。遺物は土師器が出土し、北側の2号溝と同時期の溝であると考えられる。

出土遺物 (第17図)

第16図20は土師器の把手である。残存長8.5cmを測る。21は瓦質の羽釜である。内面は丁寧なヨコナデを行っており、外面は板状工具によりナデ調整をしている。22は土師器の土鍋である。外面に厚く煤が付着している。23は土師器の坏である。底径7.8cmを測る。底部には糸切りがみられる。

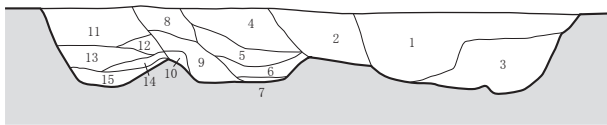
6号溝 (第14図)

調査区北東から南西にかけてはしる溝で約60m検出した。2・3・4・7・8号溝に切られる。溝の断面はU字形である。埋土は黒色土に地山由来の黄褐色粘質土が水平堆積しており、よく締まっている。遺物は土師器が出土しているが小片のため実測には至らなかった。しかし切り合い関係からこの溝が一番古い時期の溝であると考えられる。



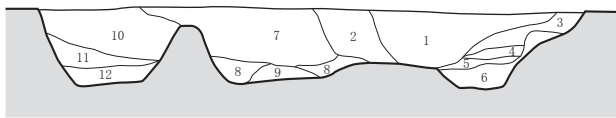
- 1 7.5YR4/2 灰褐色土 (表土)
- 2 10YR4/1 褐灰色土
- 3 10YR3/2 黒褐色土
- 4 10YR3/2 黒褐色土+7.5YR4/4 褐色粘土ブロック
- 5 10YR3/1 黒褐色土 (にぶい黄褐色土を含む)
- 6 10YR3/1 黒褐色土 (黒色土粒を少量含む)
- 7 にぶい黄橙色土 (砂質土・褐色ブロックを少量含む)
- 8 にぶい黄橙色土 (明黄褐色土ブロックを含む)
- 9 にぶい黄褐色土 (暗褐色土を含む)
- 10 灰黄褐色土 (褐色土ブロックを少量含む)
- 11 10YR3/1 黒褐色土 (黄褐色土粒を少量含む)
- 12 10YR2/1 黒色土 (暗褐色ブロックを少量含む)
- 13 10YR2/1 黒色土 (暗褐色ブロックを中量含む)
- 14 10YR2/1 黒色土 (暗褐色土粒を少量含む)
- 15 10YR3/1 黒褐色土 (褐色土粒を少量含む)
- 16 10YR3/2 黒褐色土 (にぶい黒褐色ブロック・褐色ブロックが混じる)
- 17 10YR2/1 黒色土 (黄褐色土粒を少量含む)
- 18 10YR3/1 黒褐色土
- 19 10YR2/1 黒色土 (黄褐色土粒を少量含む)
- 20 10YR3/2 黒褐色土 (黄褐色土粒を少量含む)
- 21 10YR3/2 黒褐色土 (黄褐色土粒を少量含む)
- 22 10YR2/2 黒褐色土 (黄褐色土粒を少量含む)
- 23 10YR2/1 黒色土 (にぶい黄褐色土粒を少量含む)
- 24 10YR2/1 黒色土 (黄褐色土粒と褐色土粒が混じる)
- 25 10YR2/1 黒色土 (黄褐色土と暗褐色土を少量含む)
- 26 10YR4/4 褐色土 (黄褐色土と褐色ブロックが混じる)
- 27 10YR3/3 暗褐色 (暗褐色土と黒色土ブロックが混じる)

b 13.500m b'



- 溝① 1 10YR3/1 黒褐色土 (a-a' 土層の第18層と同様)
- 溝② 2 10YR4/1 褐灰色土 (a-a' 土層の第19層と同様)
- 溝③ 3 10YR3/1 黒褐色土 (10YR8/8 黄橙色粘土ブロックが混じる)
- 溝④-1 4 10YR2/1 黒色土+10YR8/8 黄橙色粘土ブロック
- 5 10YR2/1 黒色土 (10YR8/8 黄橙色粘土ブロックが多量に混じる)
- 6 10YR4/2 灰褐色土 (2~3cm大の10YR8/8 黄橙色粘土ブロックが多量に混じる)
- 7 10YR7/6 橙色粘土
- 8 10YR2/1 黒色土
- 溝④-2 9 10YR4/1 褐灰色土 (10YR8/8 黄橙色粘土ブロックが多量に混じる)
- 10 10YR5/2 灰褐色土
- 11 10YR4/1 褐灰色土
- 12 10YR5/2 灰褐色土
- 溝⑤ 13 10YR3/1 黒褐色土 (10YR8/8 黄橙色粘土ブロックが混じる)
- 14 10YR3/1 黒褐色土 (10YR8/8 黄橙色粘土ブロックが多量に混じる)
- 15 10YR7/6 橙色粘土+10YR7/4 にぶい橙色粘土 (整地層)

c 13.500m c'



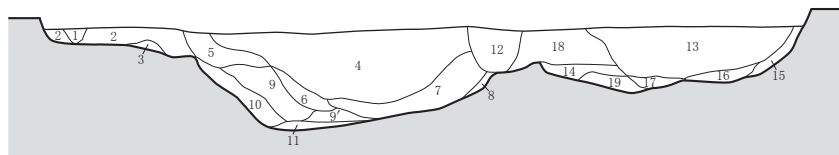
- 溝① 1 b-b' 土層の第1層と同様
- 溝② 2 b-b' 土層の第2層と同様
- 溝③ 3 10YR3/1 黒褐色土
- 4 10YR4/2 灰褐色土
- 5 10YR2/1 黒色土
- 6 10YR2/1 黒色土 (1cm大の10YR8/8 黄橙色粘土ブロックが混じる)
- 7 10YR5/3 にぶい褐色土
- 溝④ 8 10YR8/8 黄橙色粘土+10YR3/1 黒褐色土
- 9 10YR8/8 黄橙色粘土+10YR5/1 褐灰色土
- 10 10YR2/1 黒色土
- 溝⑤ 11 10YR2/1 黒色土 (10YR8/8 黄橙色粘土ブロックが少量混じる)
- 12 10YR6/3 にぶい褐色土



第12図 2・3・4号溝 土層図① (S=1/40)

d'13. 600m

d



- 1 10YR4/3 褐色土 (黄褐色土粒を含む)
- 2 10YR3/1 黒褐色土 (にぶい黄褐色土粒を含む)
- 3 10YR4/2 灰褐色土
- 4 10YR4/1 褐灰色土
- 5 10YR3/1 黒褐色土 (にぶい橙色土粒を少し含む)
- 6 10YR3/1 黒褐色土
- 7 10YR3/1 黒褐色土 (にぶい黄褐色土ブロックを少量含む)
- 8 10YR2/1 黒色土 (にぶい黄褐色土を含む)
- 9 10YR3/1 黒褐色土 (にぶい黄褐色土粒を多く含む)
- 9' 10YR3/1 黒褐色土 (にぶい褐色ブロックを含む)
- 10 10YR3/2 黒褐色土 (にぶい黄褐色土粒を多く含む)
- 11 10YR5/3 にぶい褐色土 (にぶい橙色砂質土を含む)
- 12 10YR5/1 褐灰色土
- 13 10YR4/1 褐灰色土
- 14 10YR2/1 黒色土 (にぶい黄褐色土粒を含む)
- 15 10YR5/3 にぶい褐色土 (褐色土ブロックを含む)
- 16 10YR4/2 灰褐色土 (暗褐色土ブロックを含む)
- 17 10YR4/2 灰褐色土 (暗褐色土ブロックと黄褐色土ブロックを含む)
- 18 10YR4/2 褐灰色土 (にぶい黄褐色土粒を多く含む)
- 19 10YR7/4 にぶい橙色 (黒褐色土ブロックを含む)



第 13 図 2・3・4 号溝 土層図② (S=1/40)

7 号溝 (第 14・15 図)

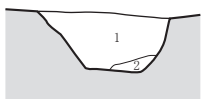
調査区南東から北西にはしる溝で断面は逆台形状を呈する。8・10 号溝を切っている。埋土は黒褐色土である。溝の途中で 19 号溝と合流する。3 号溝、19・20 号溝との切り合いを確認するために土層を設定したがそれぞれの溝は切り合いがなく同時期に機能していたと考えられる。18 世紀後半から 19 世紀中頃の所産である。

出土遺物 (第 17 図 図版 11・12)

第 17 図 28 は陶器の小壺である。外面には暗赤褐色の釉を、内面には透明釉を施している。29 は陶器の仏飯具である。脚部のみ残存している。外面に褐色の釉を施しているが内面にはみられない。30 は白磁の紅皿である。型押し成型で、内面に白色の釉を施している。31 は磁器の瓶である。底径 8.0cm、残存高 15.7cm を測る。外面にはコバルトブルーで草花文を描く。外面には透明釉を施すが、内面には釉を施していない。

SD3

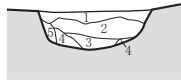
f' 13.400m f



- 1 7.5YR4/1 褐灰色土
- 2 7.5YR4/1 褐灰色土+10YR8/6 黄橙色粘土ブロックが少量混じる

SD8

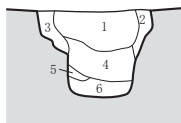
g 13.400m g'



- 1 10YR4/1 褐灰色土
- 2 10YR5/1 褐灰色土+1.5cm大の10YR8/8 黄橙色粘土ブロックが混じる
- 3 10YR5/1 褐灰色土+1~3cm大の10YR8/8 黄橙色粘土ブロックが混じる (人為的埋め戻し)
- 4 10YR3/1 黒褐色土 (人為的埋め戻し)
- 5 10YR4/2 灰黄褐色土

SD8

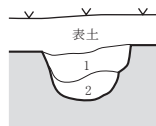
h 13.600m h'



- 1 10YR3/1 黒褐色土 (10YR8/6 黄橙色土ブロックを少量含む、固くしまり粘質)
- 2 5YR6/1 褐灰色
- 3 7.5YR6/3 にぶい褐色土 (10YR7/6 明黄褐色土ブロックを含む、固くしまり粘質)
- 4 2.5YR3/1 黒褐色土 (2.5YR8/8 黄色土を少量含む)
- 5 7.5Y2/1 黒色土 (10YR8/4 浅黄褐色土ブロックを含む、粘質だが乾いていてバサついている)
- 6 10YR3/4 暗褐色土 (2.5Y7/6 明黄褐色土を含む、大ブロックあり)

SD6

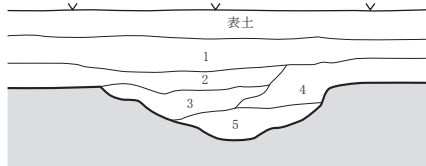
i' 13.900m i



- 1 10YR5/3 にぶい黄褐色土 (固くしまり、一部黒色土が混じる)
- 2 10YR5/1 褐灰色土 (固くしまり、第1層より粘質、一部黒色土が混じる、2.5Y6/6 明黄褐色土ブロックを含む)

SD7

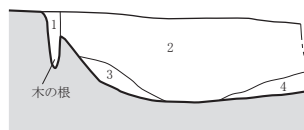
j' 13.900m j



- 1 10YR5/3 にぶい黄褐色土 (固くしまる土、10YR8/6 黄橙色土ブロックを含む)
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色土 (固くしまる土、10YR6/6 明黄褐色土ブロックを含む)
- 3 10YR65/2 灰黄褐色土 (固くしまる土、10YR7/6 明黄褐色土ブロックを含む)
- 4 10YR3/2 黒褐色土 (固くしまる土)
- 5 10YR/1 黒色土 (粘質土でしまっている、10YR7/6 明黄褐色土ブロックを含む)

SD3・7 切り合い部

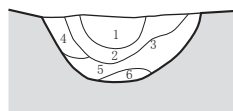
k' 13.000m k



- 1 10YR3/1 黒褐色土 (木の根)
- 2 10YR3/1 黒褐色土 (暗褐色土粒を少量含む)
- 3 10YR3/1 黒褐色土 (黄褐色土を少量含む)
- 4 10YR3/1 黒褐色土 (黄褐色土ブロックを少量含む)

SD8

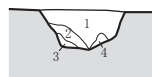
l 13.600m l'



- 1 2.5Y3/1 黒褐色土 (10YR7/8 黄橙色土ブロックを含む)
- 2 2.5Y3/2 黒褐色土
- 3 10YR1/6 明黄褐色土
- 4 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 (10YR8/6 黄橙色土ブロックを含む)
- 5 7.5YR2/1 黒色土 (10YR6/8 明黄褐色土ブロックを含む)
- 6 10YR1.7/1 黒色土

SD14

m' 13.400m m



- 1 10YR2/1 黒色土
- 2 10YR8/6 黄橙色粘土ブロック+10YR2/1 黒色土が混じる
- 3 10YR8/6 黄橙色粘土+10YR2/1 黒色土
- 4 10YR8/6 黄橙色粘土



第 14 図 3・5・6・7・8・14 号溝 土層図 (S=1/40)

8号溝 (第14・15図 図版6・7)

調査区南側で検出した溝で、方形の区画溝である。3・7・9・15号溝に切られ、6・18号溝を切る。8号溝と18号溝の切り合いを確認するために土層を設定した結果、18号溝を切って8号溝の北東角を掘削していることが判明した。溝の断面は逆台形状である。その距離は北側部分54m、南北方向44m、南側部分33mを測り、すべての総距離は131mにも及ぶ。埋土は黒褐色土と黄褐色粘質土が交互に水平堆積している。土層観察の結果、区画溝は一度に埋没しその後掘り直しなどを行っていないと思われる。この溝の機能については区画溝と考えられるが、その区画の中には明確な遺構を確認できなかった。

出土遺物 (第17図)

第17図24～26は須恵器の口縁部片である。24、25は壺の口縁部、26は鉢の口縁部片である。27は龍泉窯系青磁碗の破片である。外面に数本の鎬を有する。32、33は龍泉窯系青磁碗の底部である。内面見込部に段を有する。内外面に緑灰色の釉を施すが、高台の内側には施していない。13世紀後半ごろの所産か。

9号溝

調査区中央部で検出した溝で、8号溝を切り、3・10号溝に切られる。東西方向にはしる。断面はU字形である。20m検出した。遺物は小片のため図化していない。

10号溝 (図版7)

調査区東側で検出した溝で、7・11号溝に切られる。9・12・13号溝を切る。溝の断面は逆台形状で、平面はL字状である。32m検出した。

出土遺物 (第17図)

第17図34は瓦質のすり鉢である。外面の口縁部はヨコナデ、胴部はハケメを一部ナデ消している。調整は荒い。内面はハケメを施したのち5条のすり目を刻んでいる。35は羽釜の把手である。外面の一部に煤が付着している。

11号溝

調査区東側で検出した溝で、10号溝の北側に位置する。南北方向にはしる。18号溝を切る。溝の断面はU字状で、15m検出した。南側のほうが浅く北側にいくにつれて深くなっている。遺物は小片のため図化していない。

12号溝 (図版7)

調査区東側で検出した溝で、平面は逆L字状である。10号溝に切られる。溝の断面は逆台形であり、9m検出した。西側が浅くなっており、東側に行くにつれて深くなる。遺物は小片のため図化していない。

13号溝 (図版7)

調査区東側で検出した溝で、10号溝に切られる。東西方向にはしる。溝の断面は逆台形状で、西側にテラスを有し、東側に向かって一段下がっている。9m検出した。遺物は出土していない。

14号溝 (第14図 図版7)

調査区の南側で検出した溝で、8号溝の東側に位置する。南北方向にはしる。溝断面は逆台形状で、3.3m 検出した。この溝は溝を掘削後、黄橙色粘土と黒色土をもちいて、床面の調整を行っている。その後黒色土が堆積し、埋没している。遺物は出土していない。

15号溝 (第16図 図版7)

調査区の南側で検出した溝で、8・19・20号溝をきる。南東方向から北東方向にはしる溝である。溝の断面は逆台形に近いU字状で黒色土と褐色土がレンズ状に堆積している。遺物は、近代の陶磁器が出土している。

出土遺物 (第17図 図版12)

第17図36は白磁の皿である。口縁部が花卉状になる。内面は蛇の目剥ぎを行っている。37は磁器の皿である。内面に草花文を描く。38、39は磁器の碗である。38は外面にコバルト釉を施す。内面に文様を描く。39は外面に草文様を描く。

18号溝 (第15・16図 図版6・7・8)

調査区東側で検出した溝で、東西方向にはしる。8・11号溝に切られる。溝の断面は逆台形状で、西側にテラス面を有し、東側が一段下がっている。10m 検出した。

出土遺物 (第17図 図版)

第17図42は土師器の皿である。復元口径9.2cmを測る。底部は糸切りを施している。内面には煤が付着しており、灯明皿であろう。13世紀中頃の所産か。

19号溝 (第15図 図版8)

調査区南中央部で検出した溝で、7号溝と15号溝をつなぐように位置している。溝の南側の一部に削平をうけるが、距離は23mを測る。東側には20号溝がはしるが、土層観察の結果20号溝を切っていることがわかった。20号溝の埋没後、掘り直しを行ったものが19号溝である。溝を掘削する際に西側にテラスを構築している。埋土は灰黄褐色粘質土と褐灰色土が水平に堆積しており、人為的な埋め戻しの痕跡がみられる。また北側に接する7号溝との切り合いを確認するために土層を設定したが2条の溝には切り合い関係がなかった。同時期に機能していた溝であると思われる。

出土遺物 (第18図 図版12)

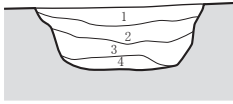
第18図4は磁器の碗である。内面にはオリーブ灰色と赤褐色の鉄釉の2色を使い分けている。外面には赤褐色の鉄釉を施すが、外面胴部下半から高台にかけては無釉である。

20号溝 (図版8)

調査区南中央部で検出した溝で、19号溝の東側に位置している。土層観察により、黒色土と褐灰色土で人為的に埋め戻しを行った後に、もう一度19号溝を再掘削している。規模は23mである。溝の断面は逆台形状で、19号溝に比べ浅い。そして北側に接する7号溝との切り合い関係は見られず同時期の溝であると思われる。遺物は小片のため図化していない。

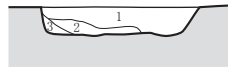
SD8

a 13.200m a'



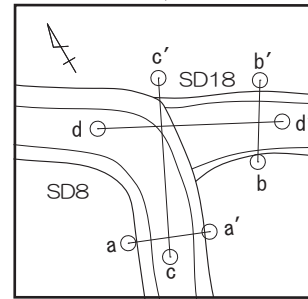
SD18

b 13.200m b'



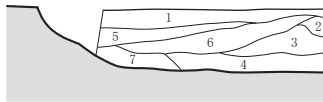
- 1 10YR2/1 黒色土 (黄褐色土粒を含む)
- 2 10YR2/1 黒色土 (黄褐色土粒を少量含む)
- 3 10YR5/4 にぶい黄褐色土 (黄褐色土ブロックを含む)

S=1/100



SD8 縦

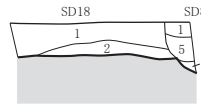
c' 13.200m c



- 1 10YR3/1 黒褐色土 (にぶい黄褐色土粒を含む)
- 2 10YR5/4 にぶい黄褐色土ブロック+黒色土ブロック
- 3 2YR2/1 黒色土 (にぶい黄褐色土ブロックを少量含む)
- 4 2YR3/1 暗褐色土ブロック+黒褐色土ブロック
- 5 10YR3/1 黒褐色土 (黄褐色土粒を含む)
- 6 10YR4/4 褐色土ブロック
- 7 10YR4/4 褐色土ブロック (少量の黒褐色土ブロックが混じる)

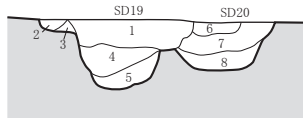
SD8・18 縦

d' 13.200m d



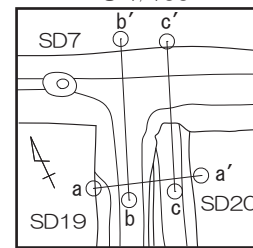
SD19・SD20

a 13.300m a'



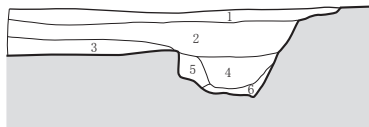
- SD19 埋土
 - 1 10YR5/2 灰黄褐色土 (粘質土)
 - 2 10YR5/1 褐灰色土 (しまりのある粘質土) (SD19 裾部にテラス状の面を構築)
 - 3 7.5YR8/6 浅黄橙色土 (固くしめる) (SD19 裾部にテラス状の面を構築)
 - 4 10YR4/1 褐灰色土 (バサつきのある粘質土、7.5YR4/3 褐色土ブロックを含む)
 - 5 10YR4/1 褐灰色土 (粘質土で第4層に比べ湿っている、10YR8/6 黄橙色土ブロックを含む)
 - SD20 埋土
 - 6 10YR3/2 黒褐色土 (固くしめる、7.5YR6/6 橙色土ブロックを含む)
 - 7 2.5Y4/1 黄灰色土 (水分を含み、固くしめる)
 - 8 10YR4/1 褐灰色土 (固くしめる、7.5YR7/6 橙色土ブロックを含む)
- ※SD19は比較的粘質土の層が堆積し、裾部にはテラス面を設けている
 ※SD20は比較的固くしまった土の層が堆積している

S=1/100



SD7・SD19

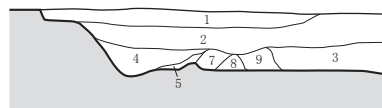
b 13.100m b'



- SD20
 - 1 7.5YR3/1 黒褐色土
 - 2 7.5YR4/1 褐灰色土
 - 3 7.5YR3/1 黒褐色土 (10YR8/8 黄橙粘土ブロックが混じる)
- SD7
 - 4 2.5Y3/1 黒褐色土
 - 5 7.5YR3/1 黒褐色土 (10YR8/8 黄橙色粘土ブロックが少量混じる)
 - 6 2.5Y3/1 黒褐色土 (10YR8/8 黄橙色粘土ブロックが混じる)
 - 7 7.5YR3/1 黒褐色土
 - 8 7.5YR4/1 褐灰色土 (1cm大の10YR8/8 黄橙粘土ブロックが混じる)
 - 9 10YR7/4 にぶい黄橙色土

SD7・SD20

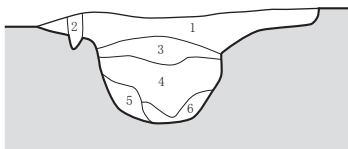
c' 13.100m c



第15図 8・18号溝、7・19・20号溝 土層図 (S=1/40)

SD15

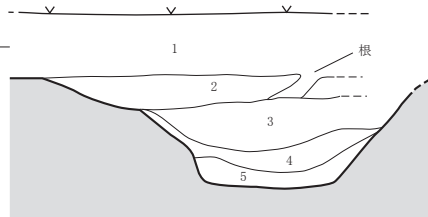
n' 13.600m n



- 1 10YR3/1 黒褐色土 (10YR8/6 黄橙色土ブロックを少量含む)
- 2 5YR6/1 褐灰色土
- 3 7.5YR6/3 にぶい褐色土 (10YR7/6 明黄褐色土ブロックを含む、固くしり粘質である)
- 4 2.5YR3/1 黒褐色土 (2.5Y8/8 黄色土ブロックを少量含む)
- 5 7.5YR2/1 黒色土 (10YR8/4 浅黄橙色土ブロックを含む。粘質だが、乾いていてパサついている)
- 6 10YR3/4 暗褐色土

SD18

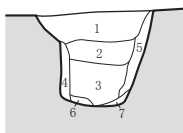
o 13.200m o'



- 1 10YR5/3 にぶい黄褐色土 (乾き、しまっている、表土)
- 2 7.5Y4/2 灰褐色土 (しまりのある粘質土、10YR7/4 にぶい黄橙色土ブロックを含む)
- 3 7.5YR2/1 黒色土 (粘質土、10YR6/6 明黄褐色土小ブロックを含む)
- 4 10YR2/1 黒色土 (粘質土、10YR8/8 黄橙色ブロックを含む)
- 5 2.5Y4/2 暗灰黄色土 (固くしまっている、10YR7/6 黄橙色土ブロックを含む)

SD21

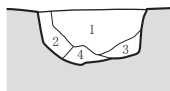
p 13.400m p'



- 1 10YR3/1 黒褐色土 (黄褐色土粒を少量含む)
- 2 10YR2/1 黒色土 (黄褐色土粒を少量含む)
- 3 10YR2/1 黒色土 (明黄褐色土粒を少量含む)
- 4 10YR3/1 黒褐色土 (褐色土粒を中量含む)
- 5 10YR2/1 黒色土 (褐色土粒を少量含む)
- 6 10YR3/3 暗褐色土 (明黄褐色土粒を多く含む)
- 7 10YR3/2 黒褐色土 (暗黄褐色土粒を含む)

SD24

q' 13.400m q



- 1 10YR3/1 黒褐色土 (明黄褐色の粘土ブロックを少量含む)
- 2 10YR3/2 黒褐色土 (にぶい黄褐色の粘土ブロックを少量含む)
- 3 10YR2/2 黒褐色土 (明黄褐色の粘土ブロックを少量含む)
- 4 10YR2/1 黒色土 (10YR4/2 灰黄褐色土が混じる、にぶい黄褐色土の粘土ブロックを少量含む)



第 16 図 15・18・21・24 号溝 土層図 (S=1/40)

21 号溝 (第 16 図 図版 8)

調査区中央部で検出した溝で、3・7・23 号溝に切られる。8・11 号土坑、24 号溝を切っている。南北方向にはしる。9 号溝との切りあい関係については不明である。20m 検出した。溝の断面は逆台形状で、溝の埋土は黒色土と黒褐色土が水平堆積している。南側が浅くなっており、北側に向かうにつれ深くなっている。遺物は土師器の鍋の破片が出土しているが小片のため図化していない。

22 号溝

調査区東側で検出した溝で、4 号溝を切る。規模は 15m 検出し、溝の平面は逆 L 字状である。遺構の埋土は褐色土であり、溝の深さは数センチととても浅い。遺物が出土していないため時期の断定は難しいが近代の時期の溝であると思われる。

23号溝

調査区中央部で検出した溝で、溝の平面はL字状を呈する。10m 検出した。この溝の埋土も褐色土であり、溝の深さも数センチととても浅い。遺物は出土しているが小片のため時期の特定は困難である。近代の溝と思われる。また23号溝の周辺にも同様の浅い溝を検出している。これらの溝も近代の溝であろう。

24号溝（第16図 図版8）

調査区中央部で検出した溝で、11号土坑の北側に位置する。溝は北西から南西方向にはしり、溝の断面はU字状である。溝の長さは6.5mを測る。南西部分が浅くなり、北西に向かうにつれ深くなっている。遺物は小片のため図化していない。

25号溝（図版8）

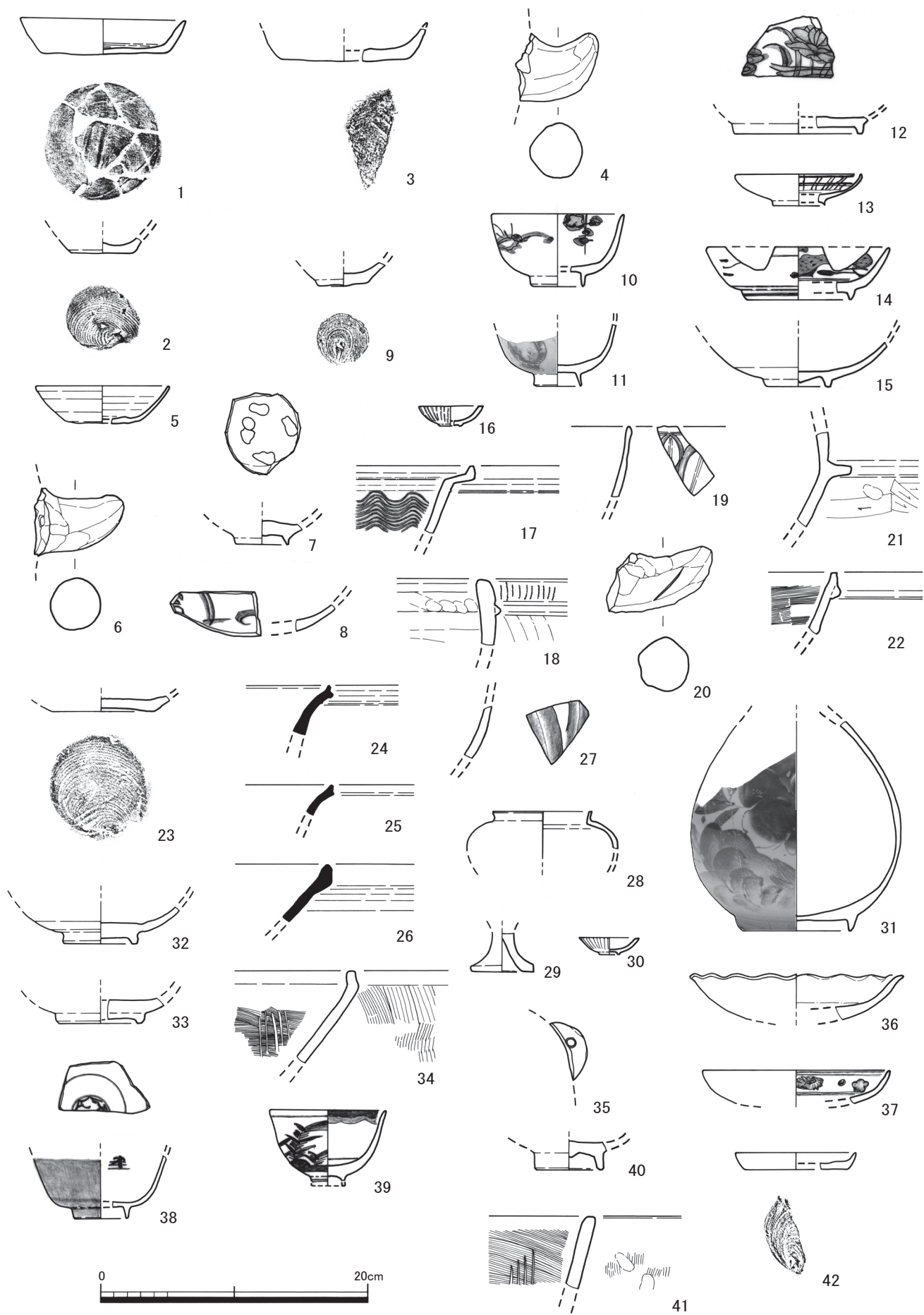
調査区北側で検出した溝で、南北方向にはしる溝である。1号溝をきる。20m 検出し、調査区外にのびる。溝の断面はU字状で、溝の深さは数センチと浅い。溝からは陶磁器が出土し、近代の溝と思われる。

出土遺物（第18図 図版13・14）

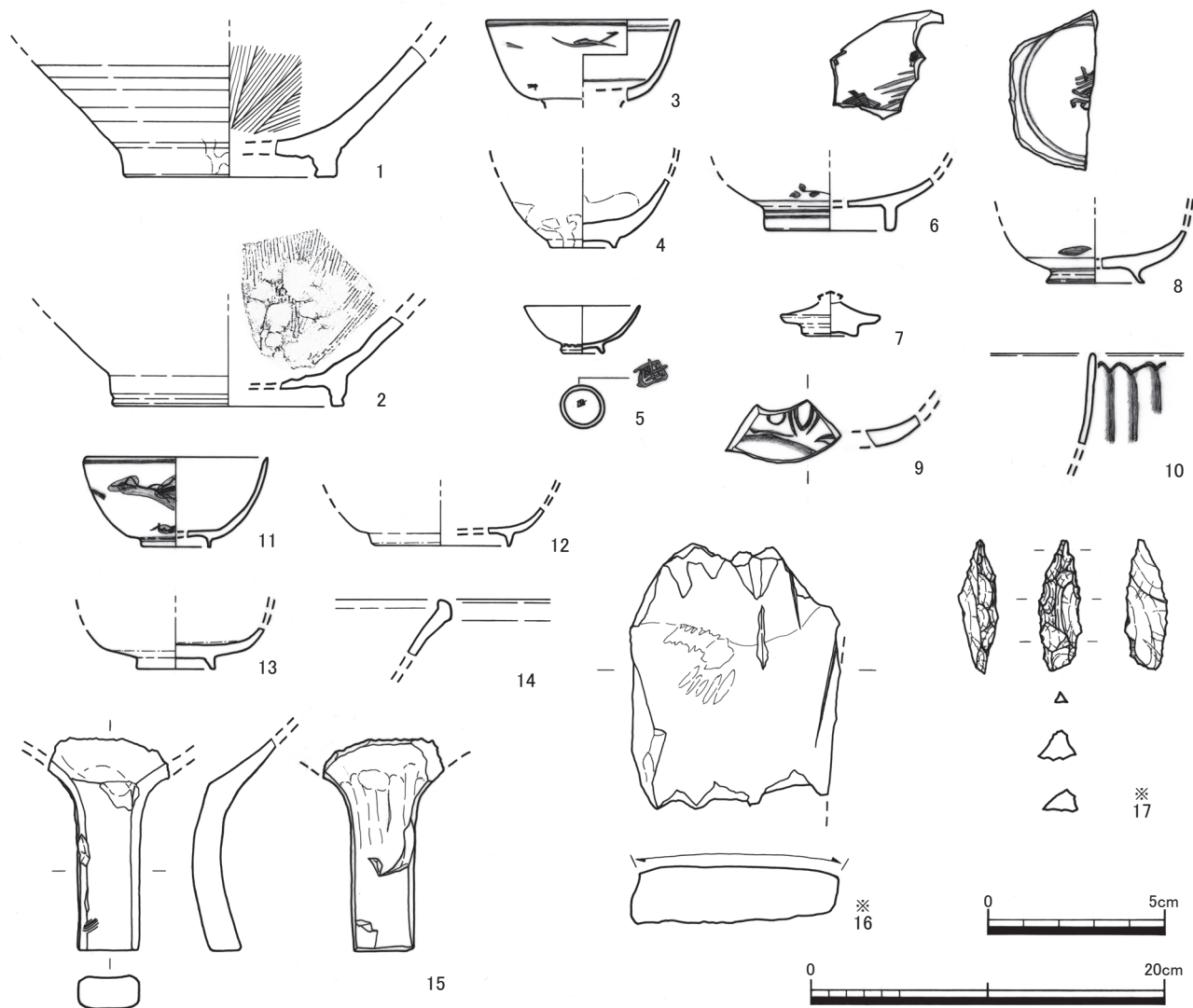
第18図5・6・8は磁器の碗である。5の高台側面には櫛歯文を描く。外面高台の内面に銘を描く。6は広東碗である。内面に航行中の帆船と海の地平線にしずむ夕日を描いている。外面には草花文を描いている。8の見込みには「寿」文を描く。外面にも一部文様がみられる。全体的に透明釉がくすんでいる。7は磁器の蓋である。外面にはオリーブ灰色の鉄釉を施す。

2・3・4号溝切り合い部 出土遺物（第17図 図版14）

第17図11は磁器の碗である。外面には山際から太陽が昇る場面を描いている。12は磁器の皿である。内外面に白色の釉を施す。13は陶器の皿である。内外面に灰褐色の釉を施す。外面高台から胴下半は無釉である。内面は蛇の目剥ぎを施す。14は瓦質の鉢の口縁部片である。



第17图 1·8号土坑、1·2·3·4·7·8·10·15·16·18号沟 出土遗物实测图 (S=1/4)



第 18 图 3·7·19·25 号沟、1 号道路状遺構 出土遺物実測図 (S=1/4、※ : S=1/2)

第4章 調査の成果

今回の調査では土坑12基、溝22条、道路状遺構1条を検出した。福童石橋遺跡は今回の調査が始めての調査である。そこで調査成果をもとにこの地の歴史を紐解いていきたいと思う。

この地で人々が最初に生活した痕跡は中世期に見受けられる。それ以前にも土師器の把手が出土している。混じり込みと思われるが、中世以前にも人々の生活の痕跡が見受けられる。中世期の遺構としては1号土坑、1・2・4・8・10号溝が当該時期にあたる。1号土坑からは13世紀後半の土師器坏が1個体完形で出土している。形態的特徴から土壙墓の可能性がある。2号土坑は出土遺物がなく正確な時期の特定は難しいが1号土坑に隣接し、土坑の形態も1号土坑と類似しており、同時期の土坑墓と考えている。また8号溝は断面台形状の方形区画である。北側は約59m、東側44m、南側33m検出し、西側は調査区外に延びる。区画溝からは13世紀後半の遺物が出土している。方形区画に内側には構造物等の遺構は確認していない。近隣の遺跡に目を向けると福童山の上遺跡2でも同時期の方形区画を確認している。2・9・11・12号溝が方形に巡り、11号溝は掘立柱建物を囲繞している。福童山の上遺跡4でも区画する溝の続きを検出している。時期は13世紀後半の時期であり本調査区8号溝との時期とも合致する。福童山の上遺跡4では区画する溝の性格について「排水をはじめ、生活空間・領域の境目として利用されていたとも想定できる」と指摘している（『福童山の上遺跡4』2002）。福童石橋遺跡で確認した8号溝も同様の性格を有していたのであろう。

また今回の調査では素掘りの井戸を2基確認している。9号土坑は8号溝を切っているため中世以降の井戸であろう。明治33年の地籍図には調査区周辺は田が広がっており、集落や井戸等は描かれていない。井戸からの遺物が出土していないため時期は不明であるが近世以前の可能性が高い。

次にこの地で人々の痕跡が見受けられるのは19世紀後半になってからである。3・7・15・19・20号溝と1号道路状遺構が当該時期にあたる。3号溝は2・4号溝を切って作られている。最下層からの出土遺物には少量であるが中世の遺物の資料も含まれることから、中世の土地区画・土地利用を踏襲して近世集落が構築された可能性が高い。また土層観察の結果、溝は数回にわたって掘り直しを行っており定期的に溝さらいを行っていたと思われる。

また今回の近世の溝を明治33年に刊行された地籍図と照合するとおおよそ一致する。またその地籍図には道路も描かれており、今回検出した1号道路状遺構と一致した。またその地籍図には薄い和紙が貼られており、「昭和年耕地整理」という印鑑が押されており、昭和期に耕地整理が行われたと考えられる。明治時代に作成された地籍図と発掘調査の成果が一致したことは大きな成果である。耕地整理が行われる前のこの地の歴史の一端を垣間見ることができた。

また、7号溝の西側に木棺墓と考えられる土坑群が存在する。土坑からの遺物の出土は皆無であり、時期は不明である。時期の特定は困難であるが、土坑群は7号溝に沿うように立地しており、7号溝との関係が指摘できる。今後の周辺の調査に期待である。



第 19 図 福童石橋遺跡 地籍図 合成図 (S=1/1,000)

表1 福童石橋遺跡 出土遺物 観察表

法量=口:口径、高:器高、底:底径、高台:高台部径、
器種=須:須恵器、土:土師器、磁=磁器、陶=陶器

挿図 番号	図版 番号	出土遺構	器種	法量cm (復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整方法	備考	実測 番号
第17図 1	9	SK1	土:坏	口:12.4 底台:9.3 器高:2.7	橙色	砂粒を含む	良好	内外:回転ナデ 外底:糸切り		1
第17図 2	9	SK8	土:坏	底径:7.8 器高:1.2	内:灰黄色 外:鈍い黄色	砂粒を含む	良好	内外:回転ナデ 外底:糸切り		1
第17図 3		SD1	土:皿	底径:(9.6) 器高:2.5	内:黒褐色~灰白色 外:浅黄橙色	砂粒を含む	良好	内外:回転ナデ 外底:ヘラ切り		1
第17図 4		SD1	土:把手	残存長:6.0	橙色	砂粒を含む	良好	ナデ		2
第17図 5	9	SD2	土:坏	口:(10.0) 器高:(2.8)	橙色	砂粒を含む	良好	内外:回転ナデ		1
第17図 6		SD2	土:把手	残存長:6.7	浅黄橙色	砂粒を含む	良好	基部:指オサエ 他:ナデ		2
第17図 7	9	SD2	磁:皿	底径:4.0 器高:(1.2)	釉:灰白色	精緻	良好	ロクロ水引き	内面に砂目有。	4
第17図 8	9	SD2	青:碗	残存長:6.3	素:褐灰色 釉:緑灰色	精緻	良好	ロクロ水引き	外面に草花文。	3
第17図 9	10	SD3	陶:皿	底径:(3.8) 器高:(1.9)	素:赤褐色 釉:褐灰色	精緻	良好	内外:回転ナデ 外底:糸切り		20
第17図 10	10	SD3	磁:碗	口:(10.0) 高台:3.8 器高:5.5	素:灰白色 釉:白色	精緻	良好	ロクロ水引き	内外面に文様有。	3
第17図 11	9	SD3	磁:碗	高台:3.4 器高:(4.6)	素:白色 釉:透明釉	精緻	良好	ロクロ水引き	外面に文様有。	4
第17図 12	10	SD3	磁:皿	底径:(9.6) 器高:(1.9)	素:白色 釉:透明釉	精緻	良好	ロクロ水引き	内面に花文様有。 外面底部に砂粒附着。	13
第17図 13	10	SD3	磁:皿	口:(9.4) 高台:(4.0) 器高:(2.4)	素:白色 釉:白釉	精緻	良好	ロクロ水引き	内面に格子文。 内面、蛇の目剥ぎ。	8
第17図 14	10	SD3	磁:皿	口:(13.4) 高台:(8.0) 器高:(4.0)	素:灰白色 釉:灰白色、緑色	精緻	良好	ロクロ水引き	内面に文様有。	18
第17図 15	10	SD3	陶:碗	高台:(4.8) 器高:(3.4)	素:明褐色 釉:内緑色、外白色	精緻	良好	ロクロ水引き	内面は蛇の目剥ぎ。	19
第17図 16	10	SD3	白:紅皿	口:(5.0) 高台:(1.8) 器高:(1.5)	素:灰褐色 釉:白色	精緻	良好	型押し成型		14
第17図 17	10	SD3	磁:鉢	器高:(5.0)	素:明褐色 釉:内灰白色 外緑色	精緻	良好	ロクロ水引き	内面に波状文。	17
第17図 18	10	SD3	瓦:鉢	器高:(4.9)	内:褐灰色 外:鈍い黄橙色	精緻	良好	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ、ナデ	外面上部に刺突文。	21
第17図 19	10	SD3	青:碗	器高:(5.3)	素:灰白色 釉:緑灰色	精緻	良好	ロクロ水引き	外面に草花文。	16
第17図 20		SD4	土:把手	残存長:8.5	橙色	砂粒を含む	良好	ナデ		5
第17図 21		SD4	瓦:鍋	残存高:7.1	内外:褐灰色	砂粒を含む	良好	内:回転ナデ 外:ケズリ 凸帯部:ヨコナデ	外面下半は灰かぶり。	6
第17図 22		SD4	土:鍋	口:(28.6) 器高:(5.7)	内:黒色 外:鈍い褐色	砂粒を含む	良好	内:ハケメ 外:ヨコナデ	外面に煤附着。	20
第17図 23		SD4	土:皿	底径:7.8 器高:(1.0)	内:浅黄橙色 外:灰白色	砂粒を含む	良好	内外:回転ナデ 外底:糸切り		1
第17図 24		SD8	須:壺	器高:(3.8)	内:褐灰色 外:黒褐色	砂粒を含む	良好	内:回転ナデ 外:回転ヘラケズリ		SD5 1
第17図 25		SD8	須:壺	器高:(2.4)	内:褐灰色 外:鈍い赤褐色	砂粒を含む	良好	内外:回転ナデ		SD5 2
第17図 26		SD8	瓦:鉢	口:(29.4) 器高:(4.4)	内外:褐灰色	砂粒を含む	良好	内外:回転ナデ		SD5 3
第17図 27		SD8	青:碗	残存長:4.4	素:灰白色 釉:緑灰色	精緻	良好	ロクロ水引き	外面に鎬有。	SD5 4
第17図 28		SD7	磁:壺	口:(7.4) 器高:(3.0)	素:灰白色 釉:鈍い黄褐色	精緻	良好	ロクロ水引き		7
第17図 29	11	SD7	磁:仏飯具	底径:4.7 器高:3.0	素:浅黄橙色 釉:褐色	精緻	良好	ロクロ水引き		9
第17図 30	11	SD7	白:紅皿	口:(4.6) 高台:(2.5) 器高:(1.3)	素:灰白色 釉:白色	精緻	良好	型押し成型		4
第17図 31	11	SD7	磁:瓶	高台:8.0 器高:(15.7)	素:灰白色 釉:透明釉	精緻	良好	ロクロ水引き	外面に草花文。	6
第17図 32	11	SD8	青:碗	高台:(5.8) 器高:(2.8)	素:灰白色 釉:緑灰色	精緻	良好	ロクロ水引き		1
第17図 33	11	SD8	青:碗	高台:(6.0) 器高:(1.8)	素:灰白色 釉:緑灰色	精緻	良好	ロクロ水引き		2
第17図 34		SD10	瓦:すり鉢	口:(34.0) 器高:(7.0)	内:黄灰色 外:褐灰色	砂粒を含む	良好	内:ハケメ→すり目 外:ヨコナデ、ハケメ		3

第17図 35		SD10	瓦:火鉢把 手	残存長:4.5	暗灰黄色	砂粒を含む	良好	ナデ		2
第17図 36	12	SD15	白:碗	口:(17.8) 器高:(3.4)	素:浅黄橙色 釉:白色	精緻	良好	ロクロ水引き	内面、蛇の目剥ぎ。	3
第17図 37	12	SD15	磁:碗	口:(14.0) 器高:(2.5)	素:乳白色 釉:透明釉	精緻	良好	ロクロ水引き	内面に文様有。	4
第17図 38	12	SD15	磁:碗	高台:(3.8) 器高:(4.7)	素:白色 釉:紺色	精緻	良好	ロクロ水引き	内面に文様有。	2
第17図 39	12	SD15	磁:碗	口:(8.8) 器高:(5.5)	素:灰白色 釉:透明釉	精緻	良好	ロクロ水引き	外面に草花文。	1
第17図 40		SD16	青:碗	高台:(5.0) 器高:(2.2)	素:灰白色 釉:オリーブ色	精緻	良好	ロクロ水引き		1
第17図 41		SD16	瓦:すり鉢	器高:(5.5)	内:鈍い黄橙色 外:褐灰色	砂粒を含む	良好	内:ハケメ→すり目 外:ハケメ→ナデ		2
第17図 42	12	SD18	土:灯明皿	口:(9.2) 底径:(7.6) 器高:(1.3)	内外:橙色	砂粒を含む	良好	内外:回転ナデ 外底:糸切り	内面の一部に煤付着。	1
第18図 1	13	SD17	磁:すり鉢	高台:(12.0) 器高:(7.5)	素:橙色 釉:鉄釉	精緻	良好	ロクロ水引き 内面:すり目		3
第18図 2	13	SD17	磁:すり鉢	高台:(13.0) 器高:(5.2)	内:暗赤灰色 外:灰赤色	精緻	良好	ロクロ水引き 内面:すり目		4
第18図 3	12	SD17	磁:碗	口:(11.0) 器高:(5.6)	素:灰白色 釉:灰白色	精緻	良好	ロクロ水引き	外面に文様有。 内面、蛇の目剥ぎ。	1
第18図 4	13	SD19	磁:碗	高台:(7.6) 器高:(4.0)	素:灰白色 釉:外 灰褐色 内 灰褐色 オリーブ色	精緻	良好	ロクロ水引き		4
第18図 5	13	SD25	陶:碗	口:(6.6) 高台:(2.4) 器高:(2.7)	素:白色 釉:白色	精緻	良好	ロクロ水引き	高台側面に櫛歯文。	1
第18図 6	14	SD25	磁:広東碗	高台:(7.2) 器高:(3.0)	素:白色 釉:白色	精緻	良好	ロクロ水引き	内外面に文様有。	3
第18図 7	13	SD25	磁:蓋	底径:3.0 天井部径:5.6 器高:(1.9)	素:赤褐色 釉:灰オリーブ色	砂粒を含む	良好	ロクロ水引き		6
第18図 8	14	SD25	磁:碗	高台:(5.4) 器高:(3.0)	素:灰白色 釉:白色	精緻	良好	ロクロ水引き	内外面に文様有。 内面、「寿」文有。	5
第18図 9	15	道路状遺構	青:碗	残存長:6.3	素:褐灰色 釉:緑灰色	精緻	良好	ロクロ水引き	内面に花草文。	2
第18図 10	15	道路状遺構	青:碗	残存長:5.2	素:褐灰色 釉:青緑色	精緻	良好	ロクロ水引き		1
第18図 11	14	表土剥ぎ	磁:碗	口:(10.2) 高台:(4.0) 器高:(5.0)	素:白色 釉:白色	精緻	良好	ロクロ水引き	外面に文様有。	1
第18図 12		SD2~SD4	磁:皿	高台:(7.6) 器高:(2.2)	素:白色 釉:透明釉	精緻	良好	ロクロ水引き		北東側切り 合い部1
第18図 13	14	SD2~SD4	磁:皿	底径:(5.0) 器高:(2.5)	素:鈍い赤褐色 釉:透明釉	精緻	良好	ロクロ水引き		北東側切り 合い部2
第18図 14		SD2~SD4	瓦:鉢	口:(25.0) 器高:(2.2)	内:浅黄橙色 外:灰白色	砂粒を含む	良好	内外:回転ナデ		北東側切り 合い部3
第18図 15	11	SD3	土:五徳	残存長:12.0	表:鈍い橙色~黒褐色 裏:灰褐色	砂粒を含む	良好	表:工具ナデ 裏:工具ナデ ナデ 底部:ヘラ切り		2
第18図 16	15	SD3	砥石	長軸:7.0 短軸:6.8 重量:120g					一面を砥石面として使用。 砂岩製。	イ1
第18図 17	15	道路状遺構	三稜尖頭器	長軸:3.7 短軸:1.2 重量:3.0g					チャート製。 波板状土坑からの出土。	イ1

图版

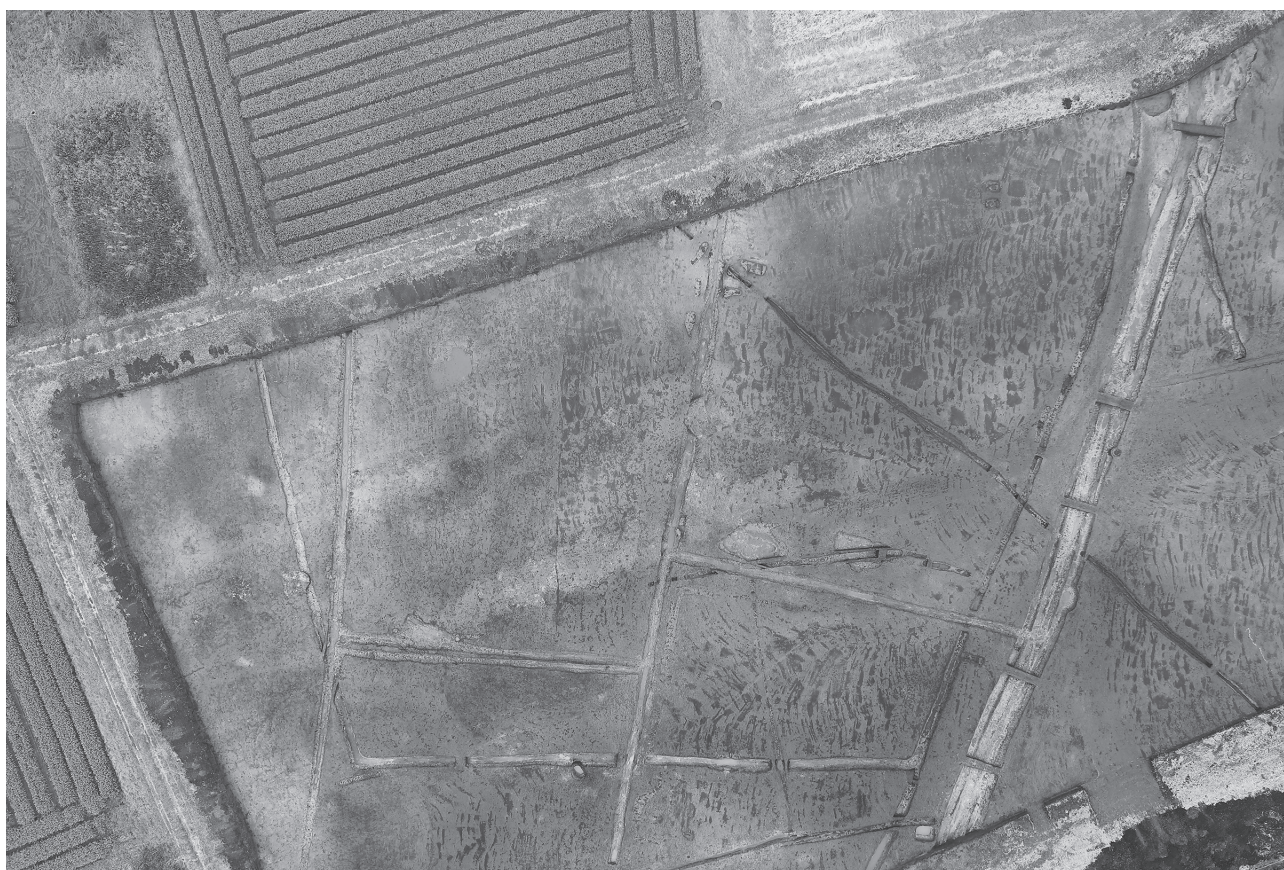
図版 1



①調査区全景（上空から）



②調査区上空から秋光川を臨む（上空から）



① 8号溝全景（上空から）



② 1号土坑 土層断面



③ 2号土坑 土層断面



④ 1号土坑 完掘



⑤ 2号土坑 完掘

图版 3



① 1·2号土坑 完掘



② 3号土坑 土层断面·完掘



③ 4号土坑 土层断面



④ 4号土坑 完掘



⑤ 5号土坑 完掘



⑥ 6号土坑 完掘



⑦ 7号土坑 土层断面



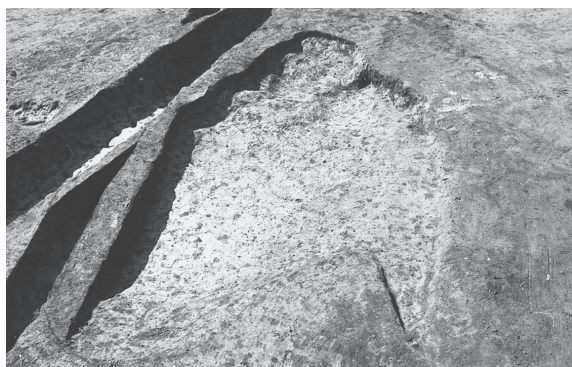
⑧ 7号土坑 完掘



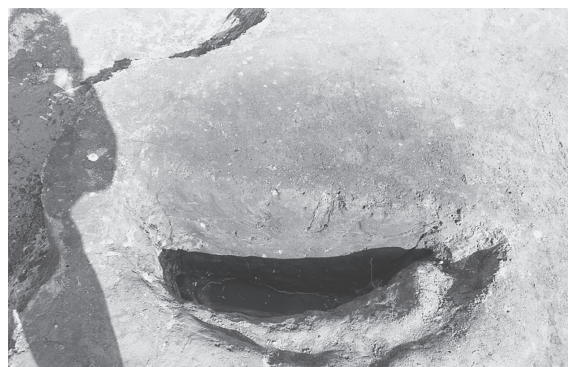
① 4·5·6·7号土坑 完掘



② 8号土坑 土层断面



③ 8号土坑 完掘



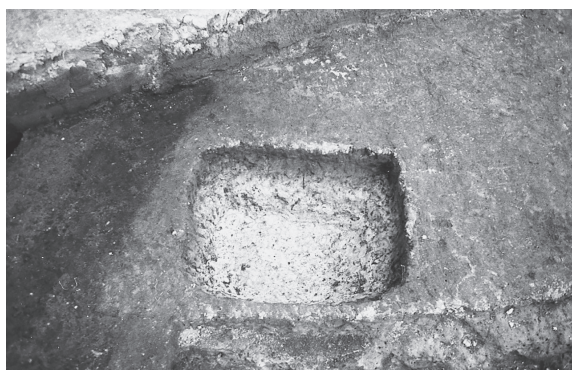
④ 9号土坑 土层断面



⑤ 9号土坑 完掘



⑥ 10号土坑 土层断面



⑦ 10号土坑 完掘



⑧ 11号土坑 土层断面



① 11号土坑 完掘



② 12号土坑 土层断面·完掘



③ 1号道路状遺構 南壁土层断面



④ 1号道路状遺構 北壁土层断面



⑤ 1号道路状遺構 完掘



⑥ 1号溝 完掘



⑦ 2·3·4号溝土层 (b-b')



⑧ 2·3·4号溝土层 (c-c')



① 2・3・4号溝土層①



② 2・3・4号溝土層②



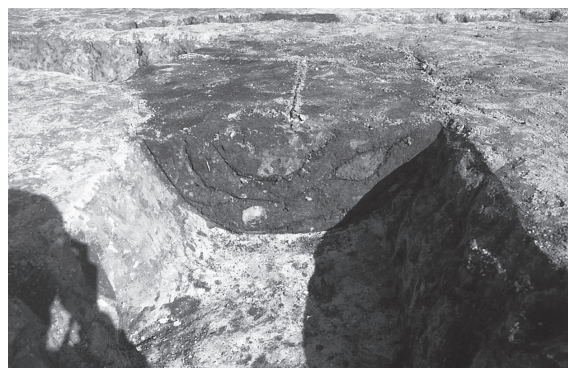
③ 2・3・4号溝土層 (d-d')



④ 2・3・4号溝 完掘



⑤ 8号溝 土層 (g-g')



⑥ 8号溝 土層 (l-l')

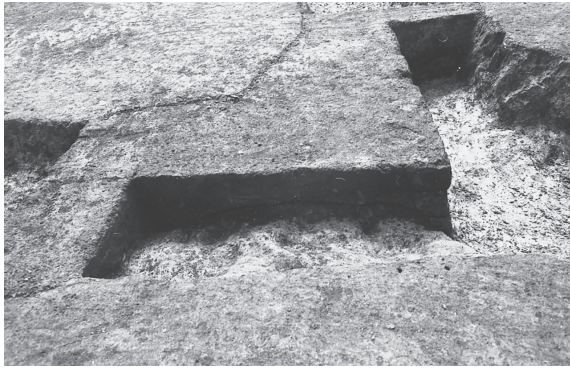


⑦ 8号溝 土層 (SD8a-a')



⑧ 8・18号溝 土層 (SD8c-c')

図版 7



① 8・18号溝 土層 (SD8・18b-b')



② 8号溝 北東角 完掘



③ 8号溝 南 完掘



④ 10・12・13号溝 完掘



⑤ 14号溝 土層 (m-m')



⑥ 15号溝 土層 (n-n')



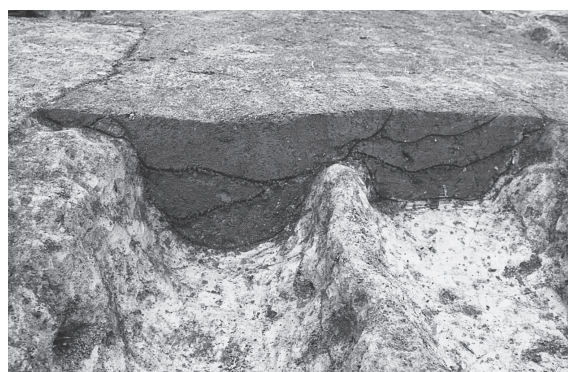
⑦ 15号溝 完掘



⑧ 作業風景



① 18号溝 土層 (o-o')



② 19・20号溝 土層 (SD19・20a-a')



③ 19・20号溝 完掘



④ 21号溝 土層 (p-p')



⑤ 24号溝 土層 (q-q')



⑥ 21・24号溝 完掘

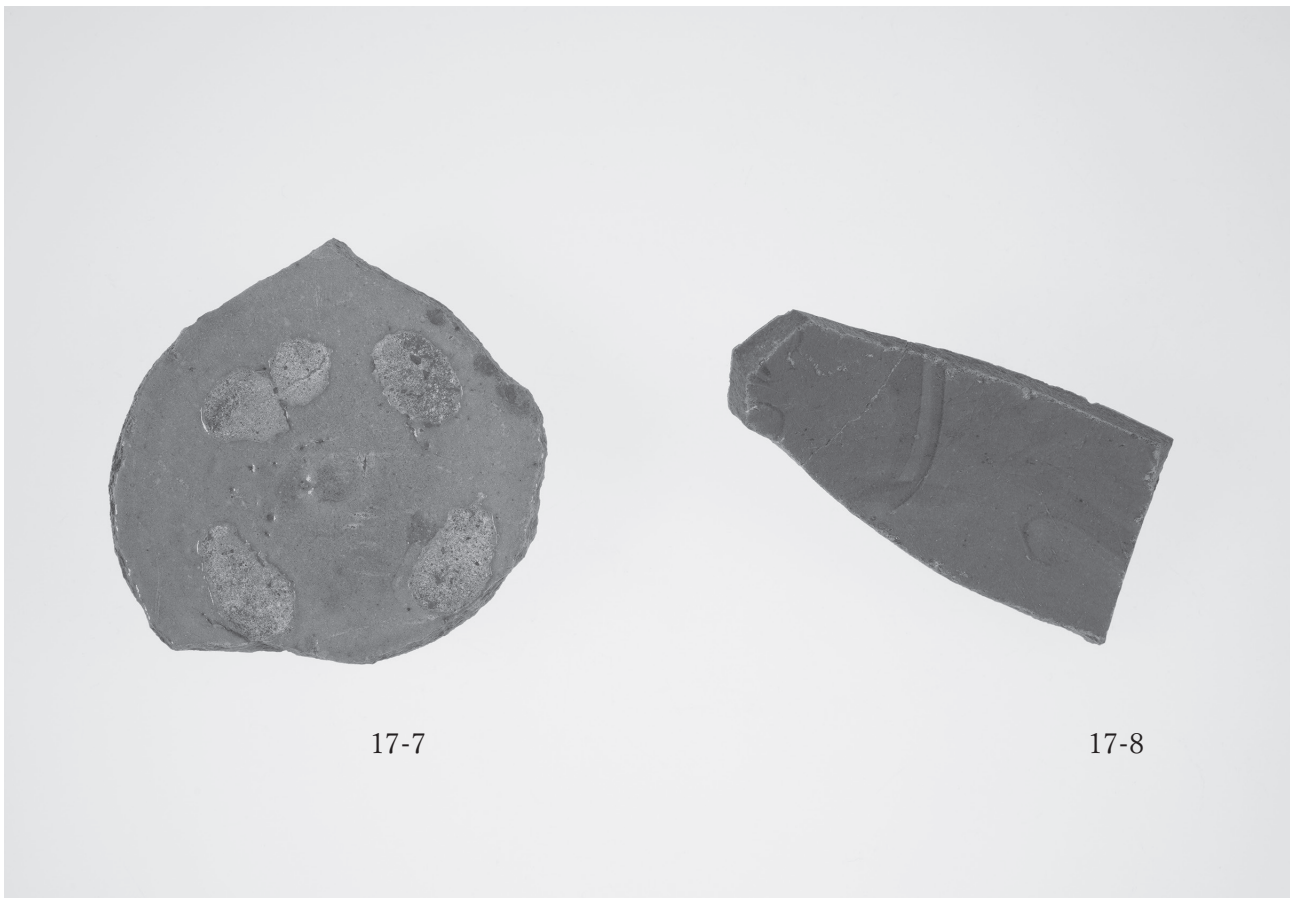


⑦ 25号溝 完掘

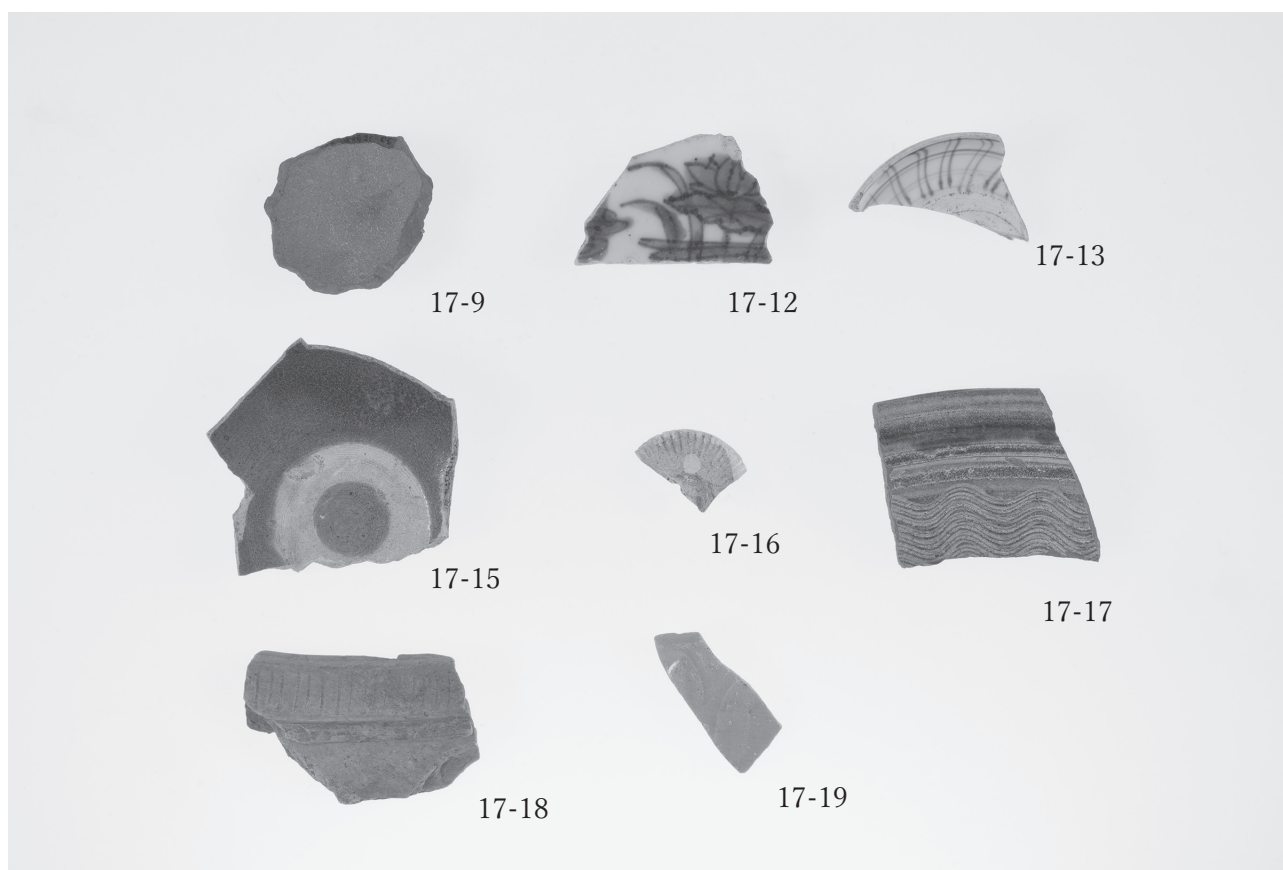


⑧ 作業風景

图版 9

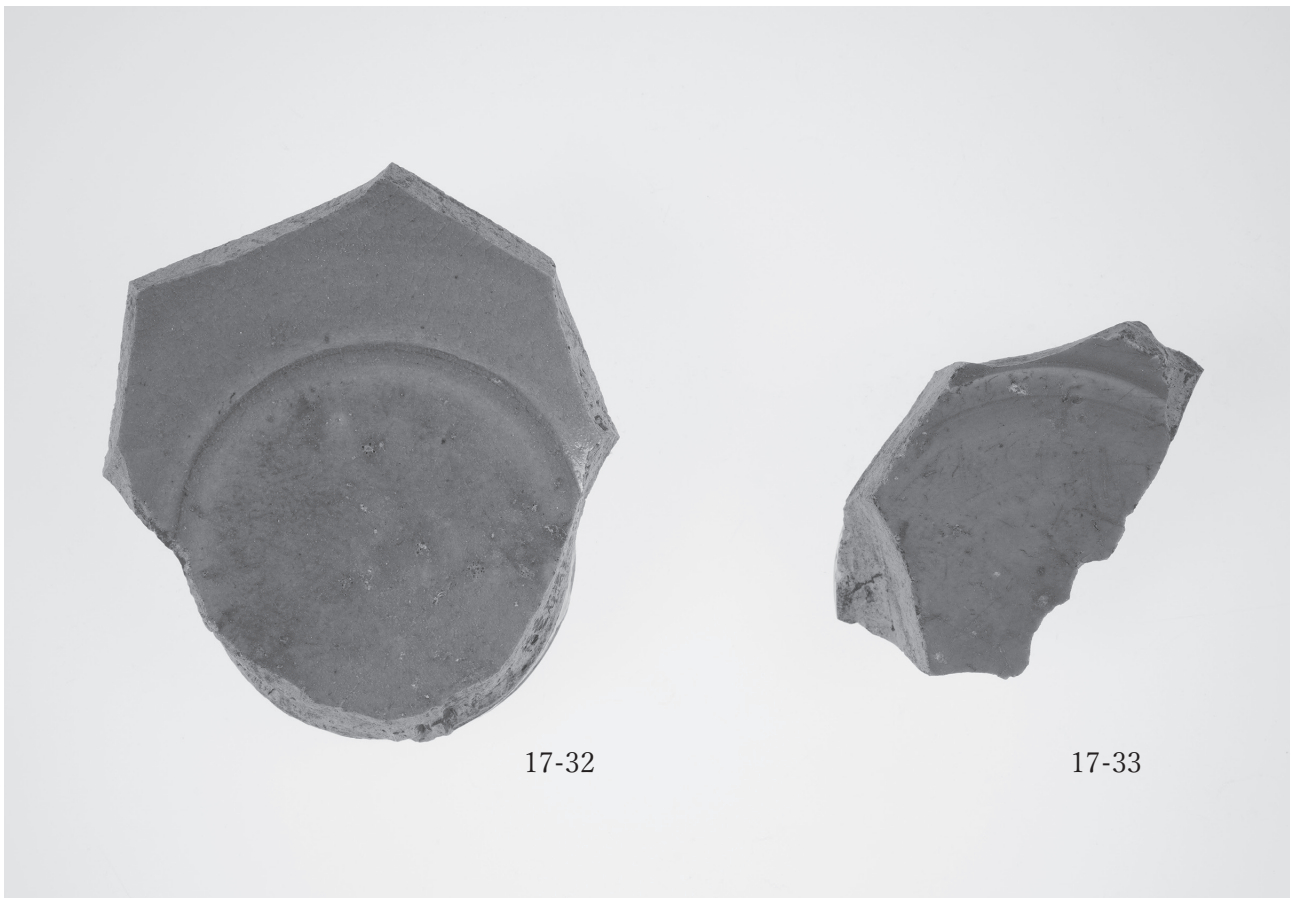


出土遺物①

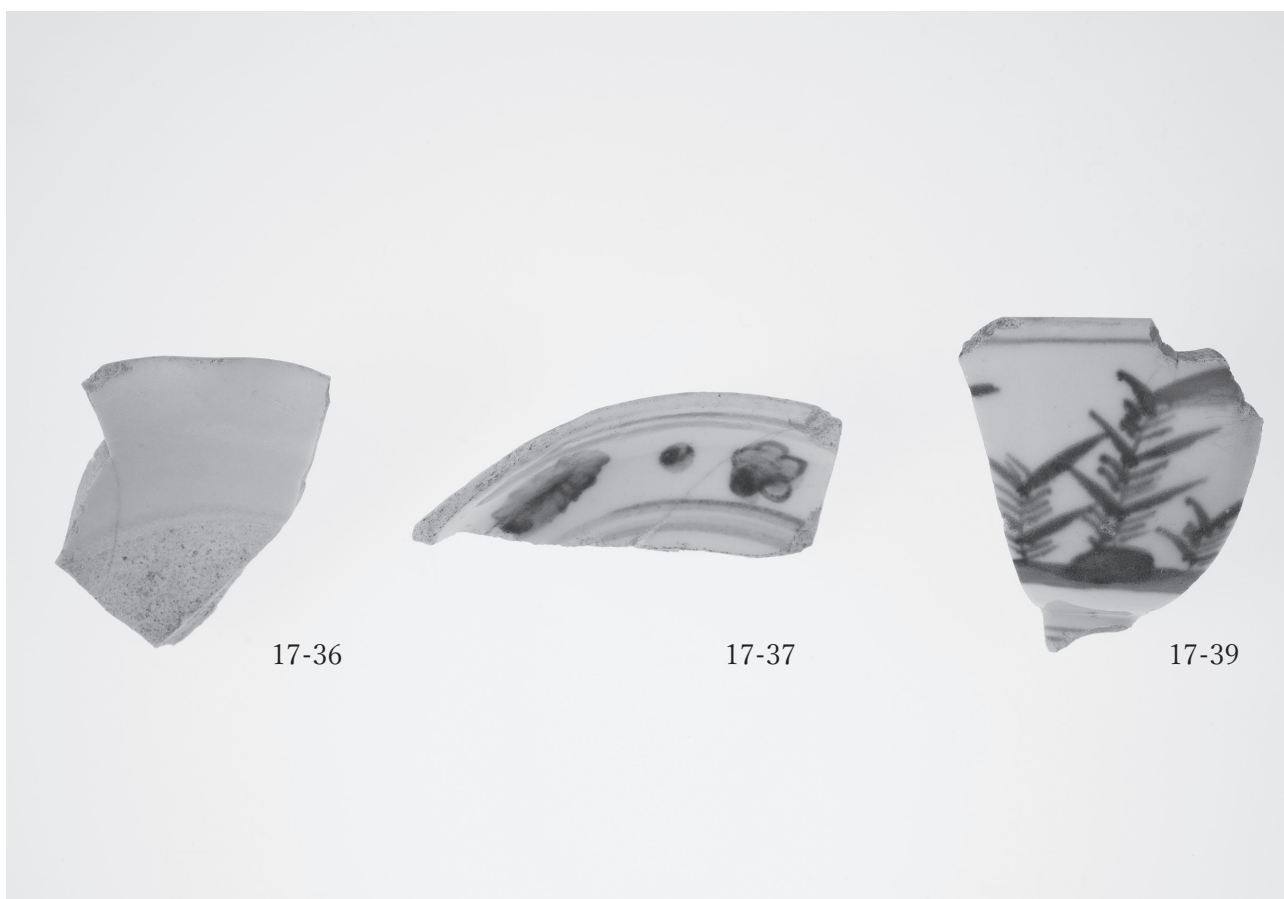
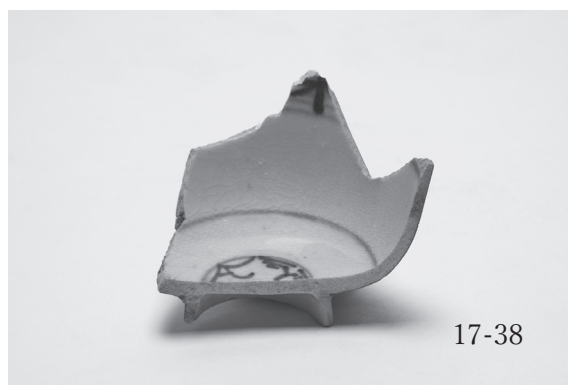


出土遺物②

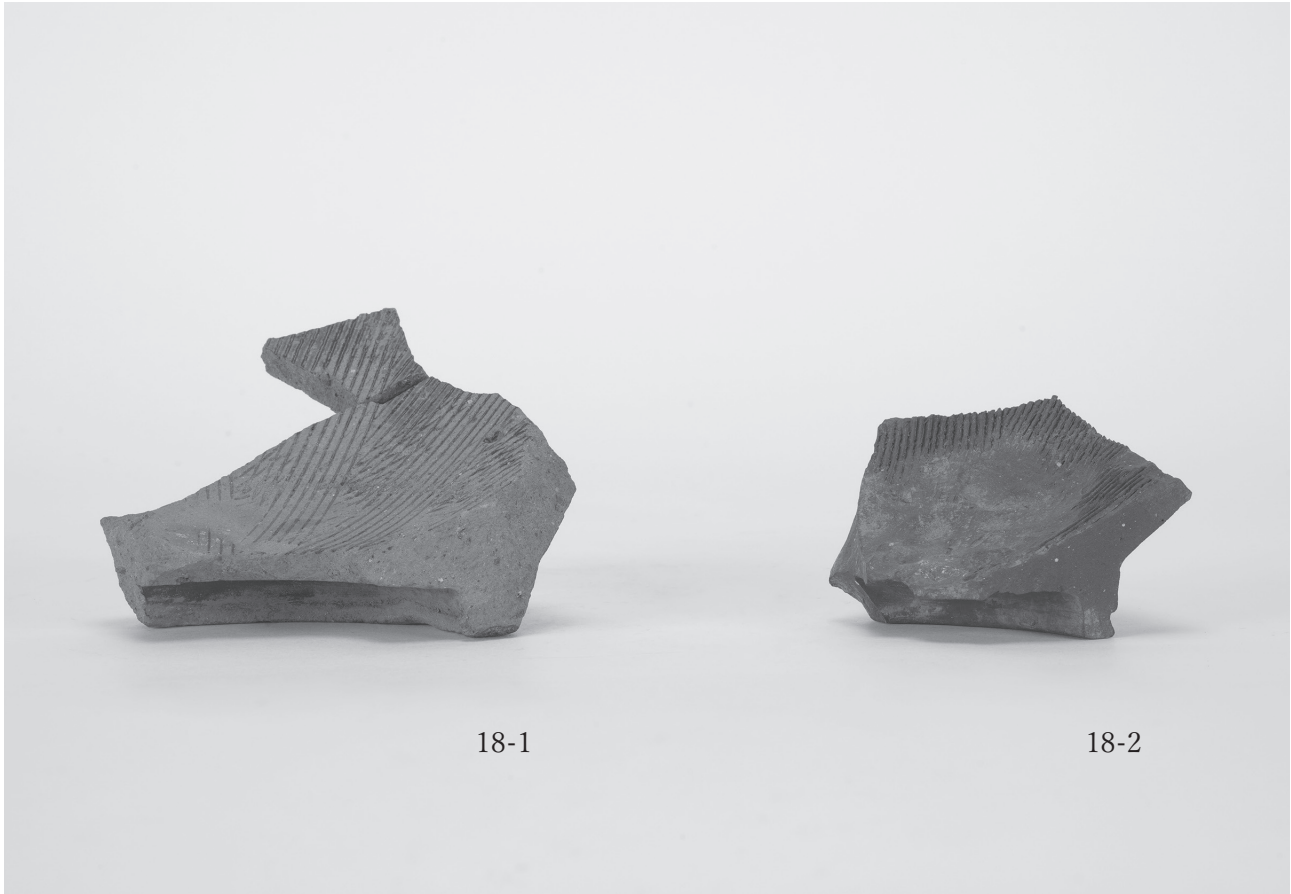
图版 11



出土遺物③



出土遺物④

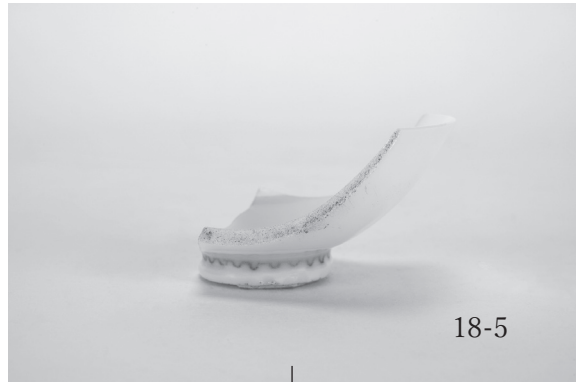


18-1

18-2



18-4



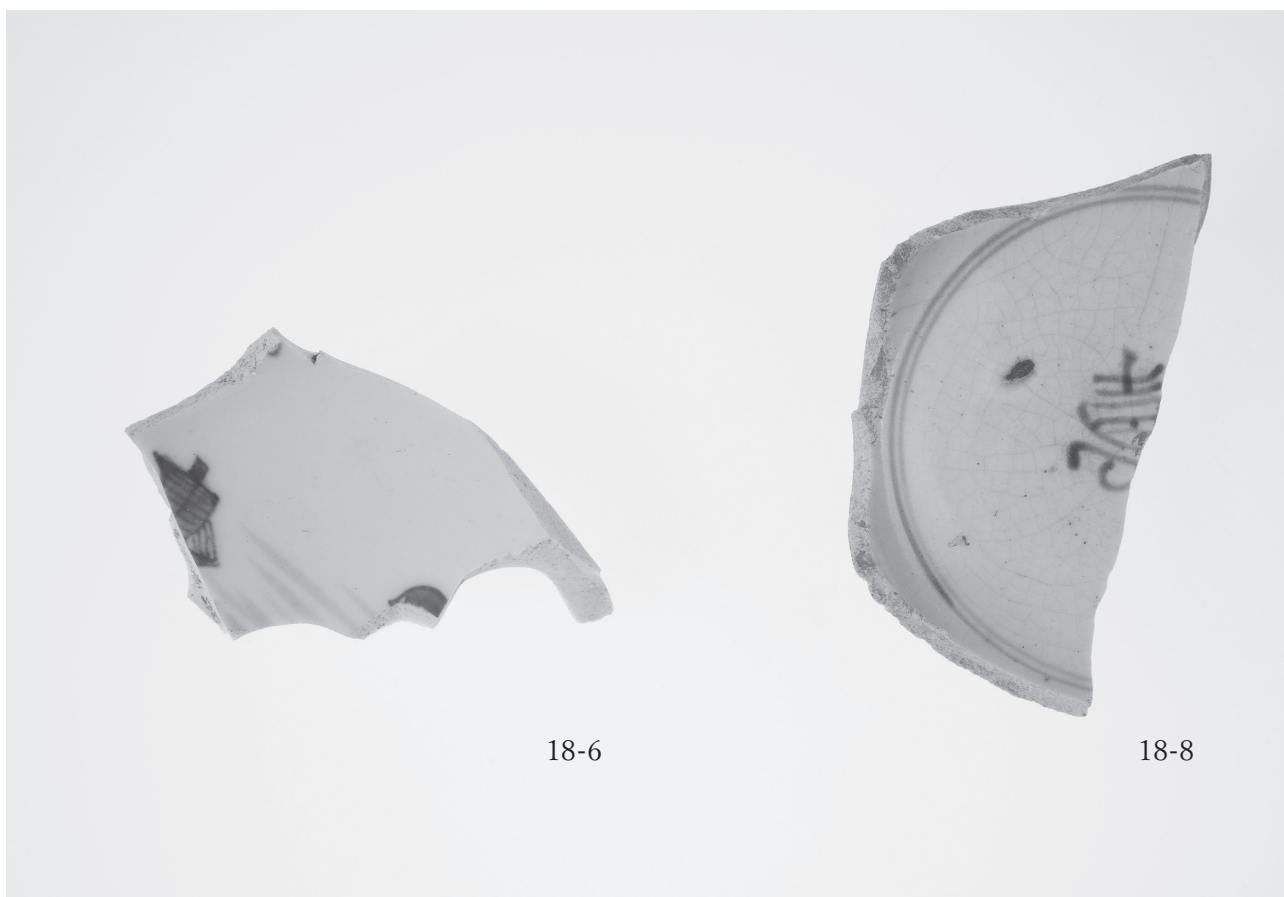
18-5



18-7



出土遺物⑤



18-6

18-8

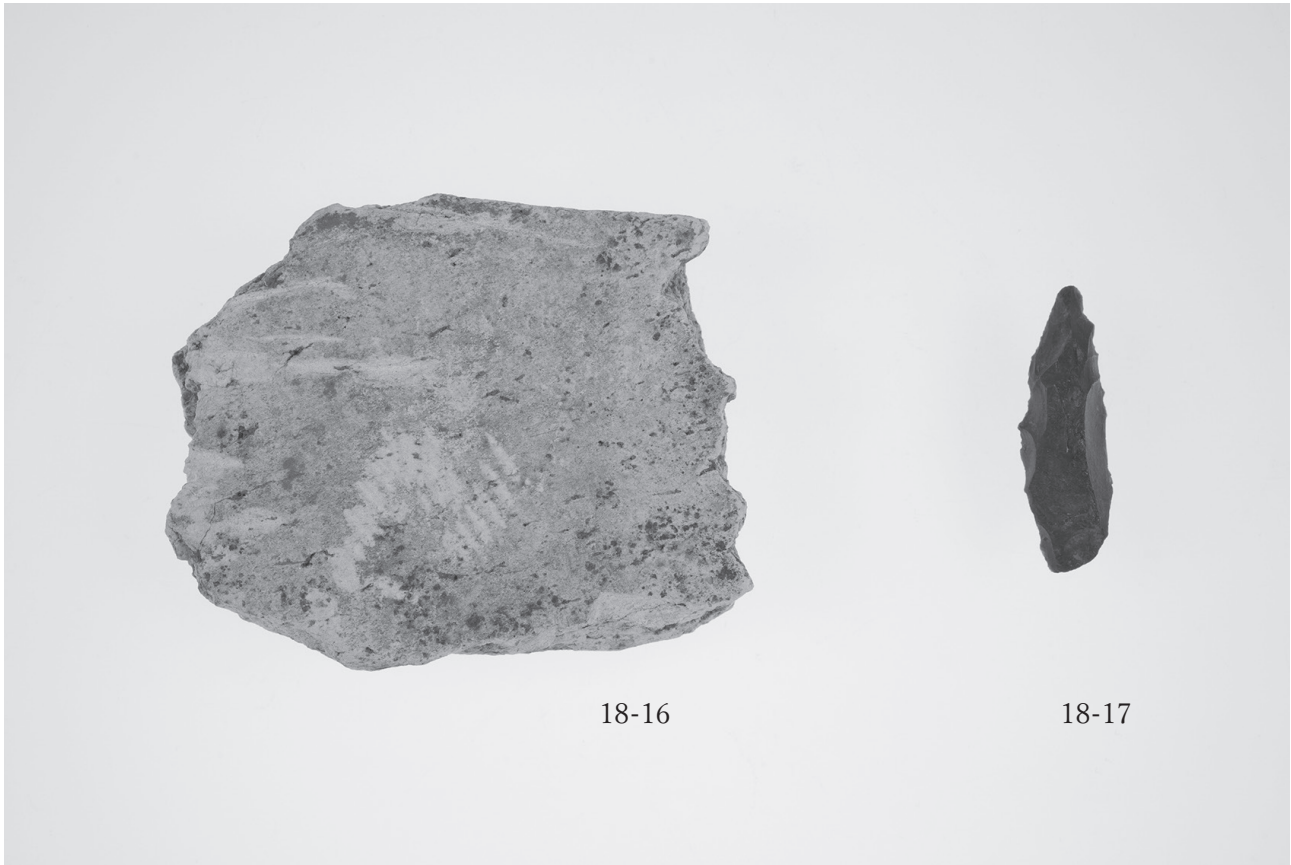
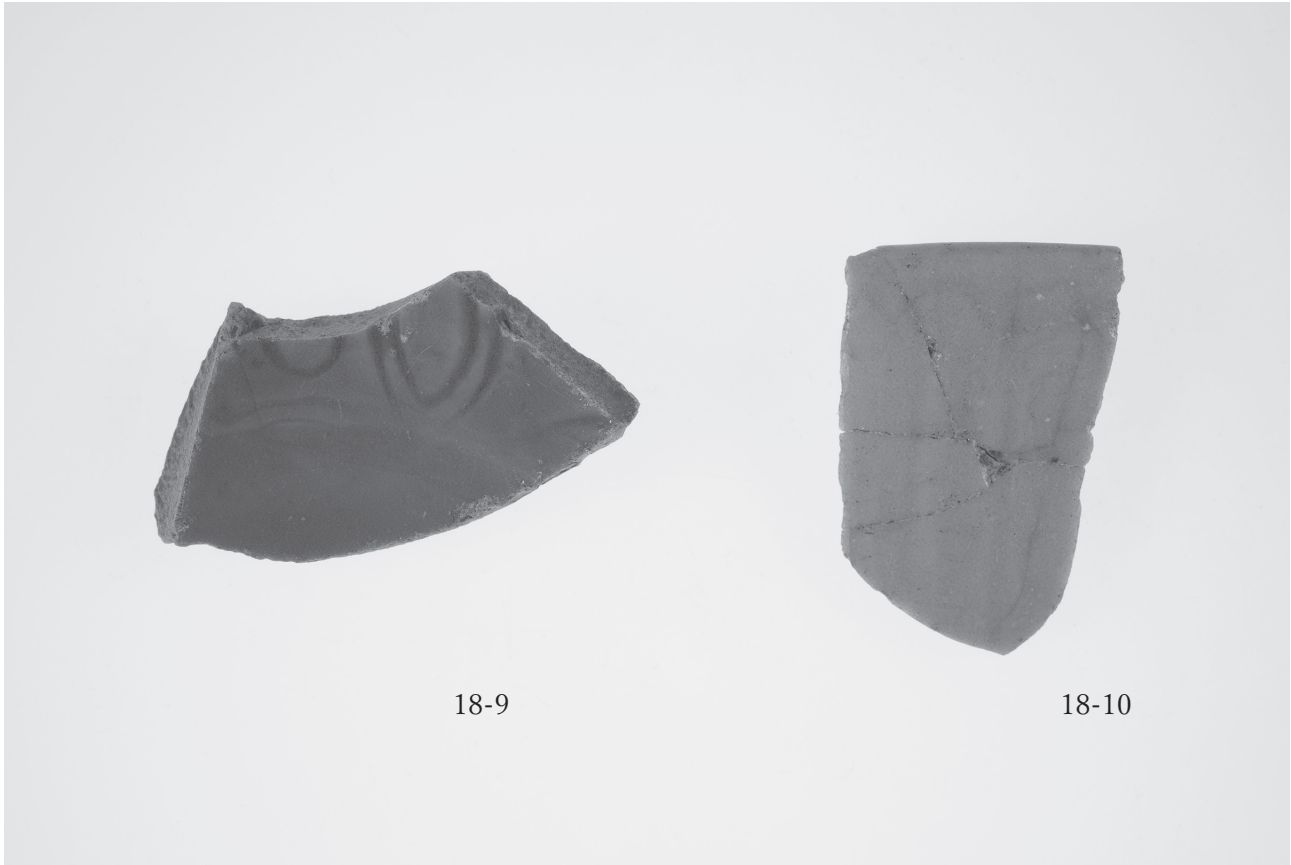


18-11



18-13

出土遺物⑥



出土遺物⑦

報告書抄録								
ふりがな	ふくどういしばしいせき							
書名	福童石橋遺跡							
副書名	福岡県小郡市福童所在遺跡の調査報告							
巻次								
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 362 集							
編著者名	高橋 渉							
編集機関	小郡市教育委員会 小郡市埋蔵文化財調査センター							
所在位置	〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5147-3 TEL0942-75-7555							
発行年月日	令和 6 年 3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町 村	遺跡番 号					
福童石橋遺跡	福岡県 小郡市 福童	40216		33° 23′ 05″	130° 32′ 36″	2023.1.26 ～ 2023.3.31	5,320 m ²	流通倉庫建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
福童石橋遺跡	集落	中世 近世		土坑 溝		土師器 陶磁器		
<p>当遺跡は宝満川の支流秋光川の左岸低台地に位置する。本調査区が初めての調査であり、遺構は溝 22 条、土坑 12 基、道路状遺構 1 条を確認した。土坑の中には木棺墓と考えられる土坑を 3 基、井戸が 2 基含まれる。溝は東西に延びる溝を多く確認し、調査区の西側に流れる秋光川からの灌漑用の溝であると考えられる。また、北東隅では近代の道路状遺構を確認した。これらの溝や道路状遺構は明治 33 年の地籍図に書かれているものと考えられ、近代のこの地の生活の痕跡を解明することができた。</p>								

福童石橋遺跡
 小郡市文化財調査報告書 第 362 集
 ー福岡県小郡市福童所在遺跡の調査報告ー
 令和 6 年 3 月 31 日
 発行 小郡市教育委員会
 小郡市小郡 255-1
 出版 片山印刷
 小郡市祇園 1-8-15

Y=42540 Y=42530 Y=42520 Y=42510 Y=42500 Y=42490 Y=42480

X=42820

X=42810

X=42800

X=42790

X=42780

X=42770

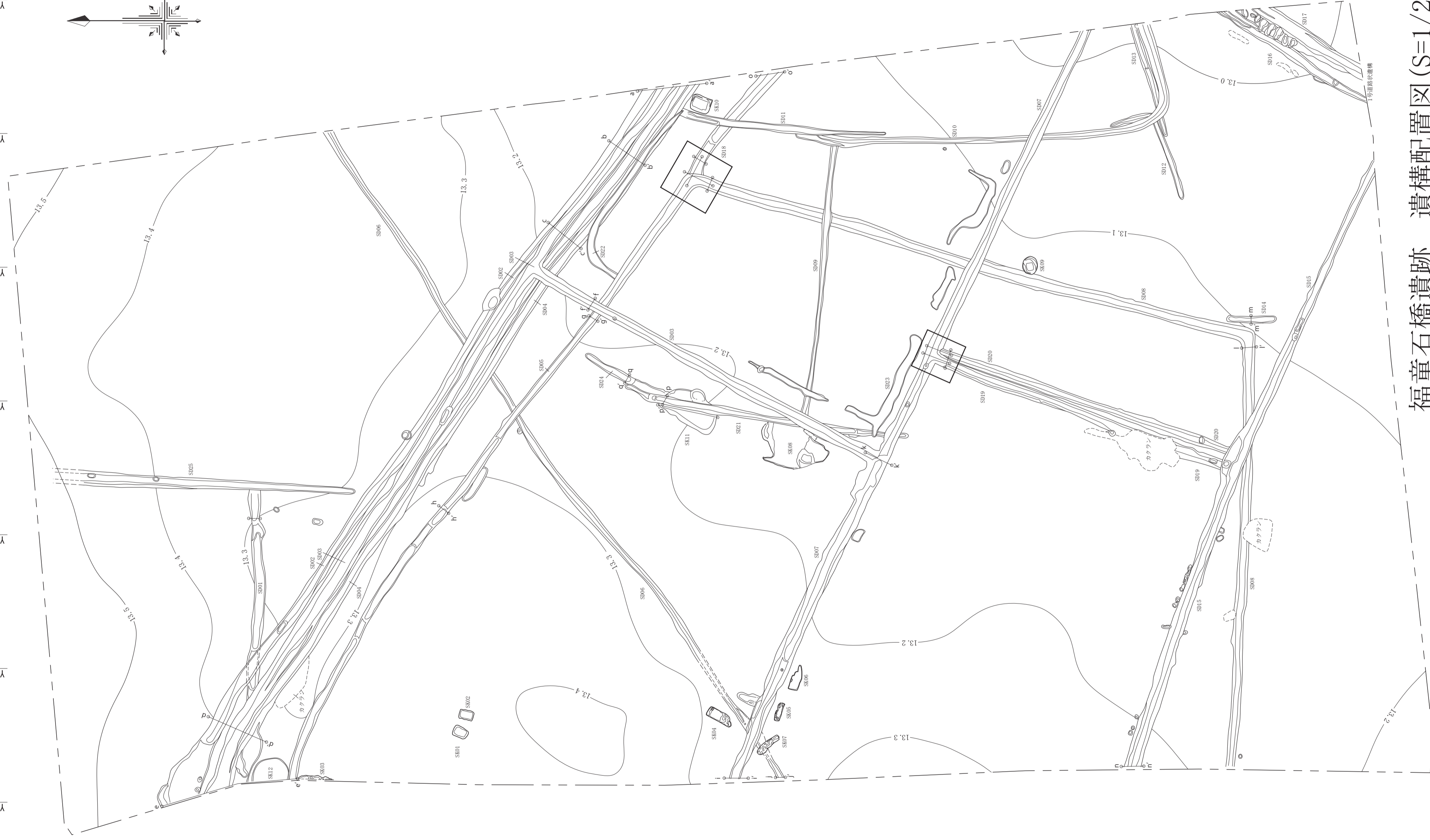
X=42760

X=42750

X=42740

X=42730

X=42720



福童石橋遺跡 遺構配置図 (S=1/200)